

平成30年3月期 決算説明会

2018年5月21日

阪和興業株式会社

- ・売上高
鋼材や金属資源の価格水準が上昇したことにより、前期比18%の増加。
 - ・販管費
人件費約24億円増加(内、新規連結影響10億円)などにより、前期比12%の増加。
 - ・経常利益
金属原料事業の利益増に加え、前期為替差損の差益への転換により、11%増益。
 - ・親会社株主に帰属する当期純利益
特別利益の減少や法人税等の増加はあったものの、6%の増益。
- (単位：億円)

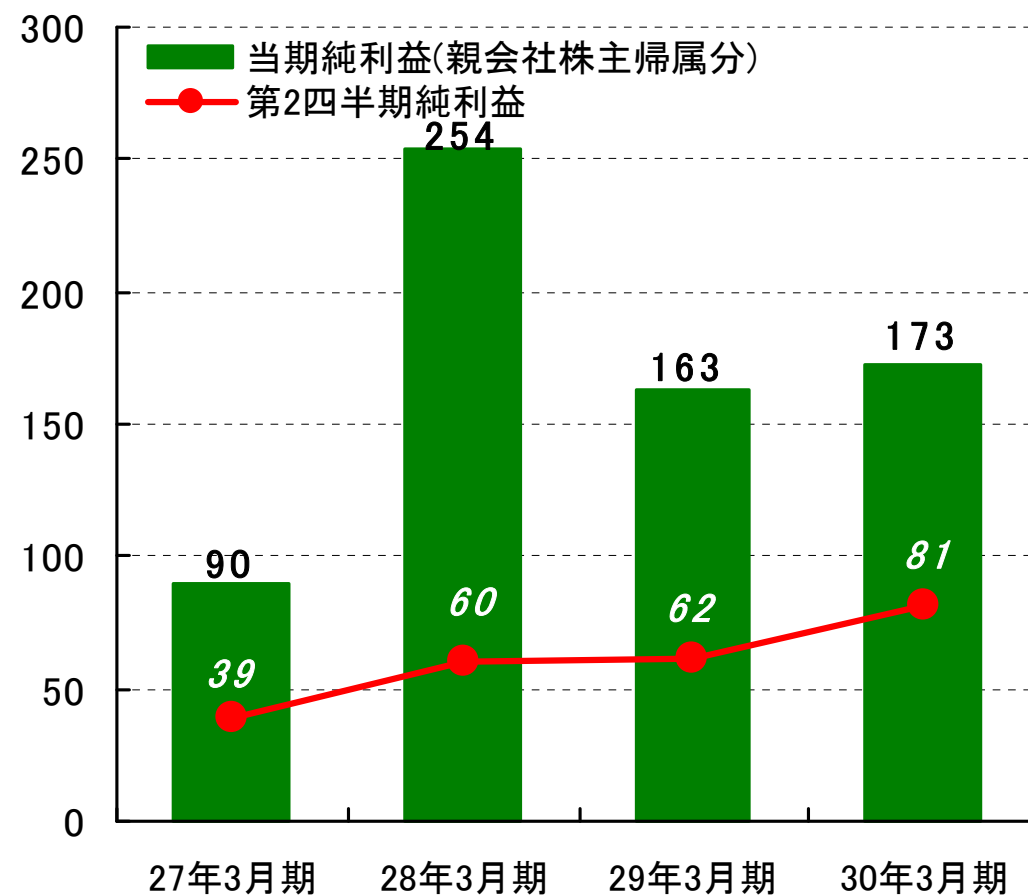
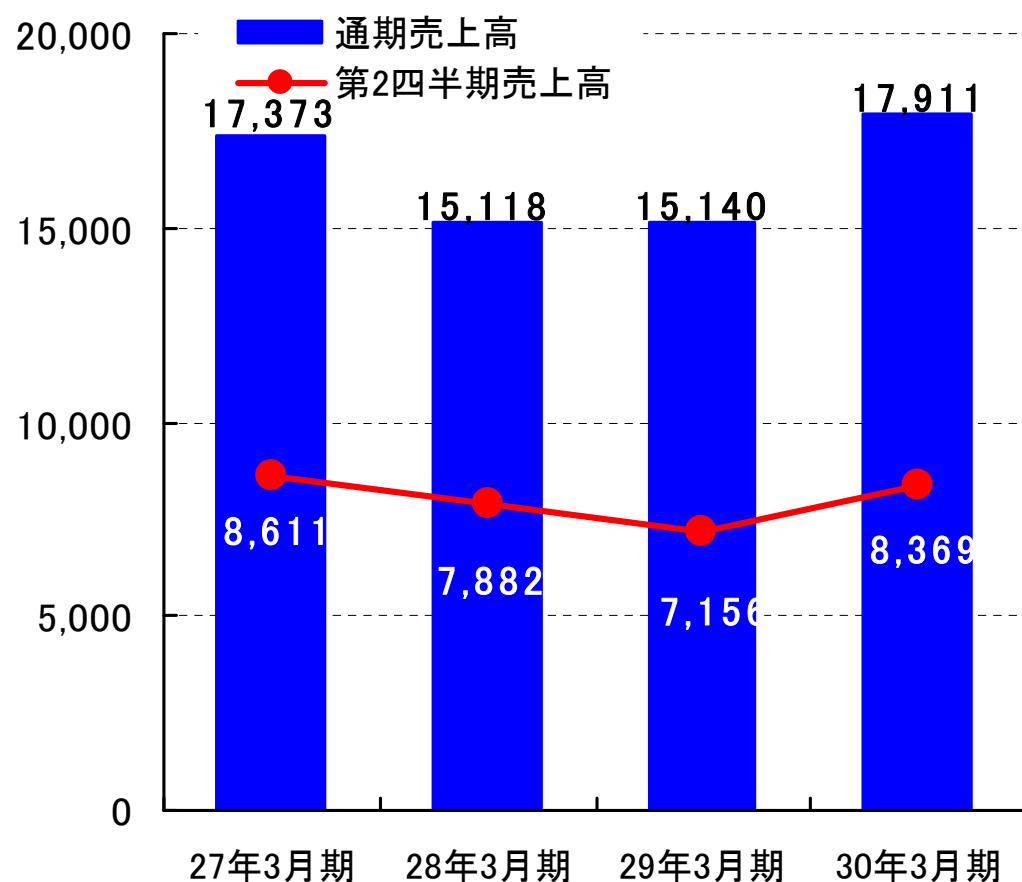
	前 期	当 期	増減比
売上高	15,140	17,911	+18%
売上総利益	645	721	+12%
販管費	410	459	+12%
営業利益	234	262	+12%
経常利益	229	255	+11%
親会社株主に帰属する 当期純利益	163	173	+6%
1株当たり当期純利益	400.89円	427.04円	+7%
包括利益	209	225	+7%

(1株当たり当期純利益は、10月に実施した株式併合(5株⇒1株)の影響を加味して再計算したものの。)

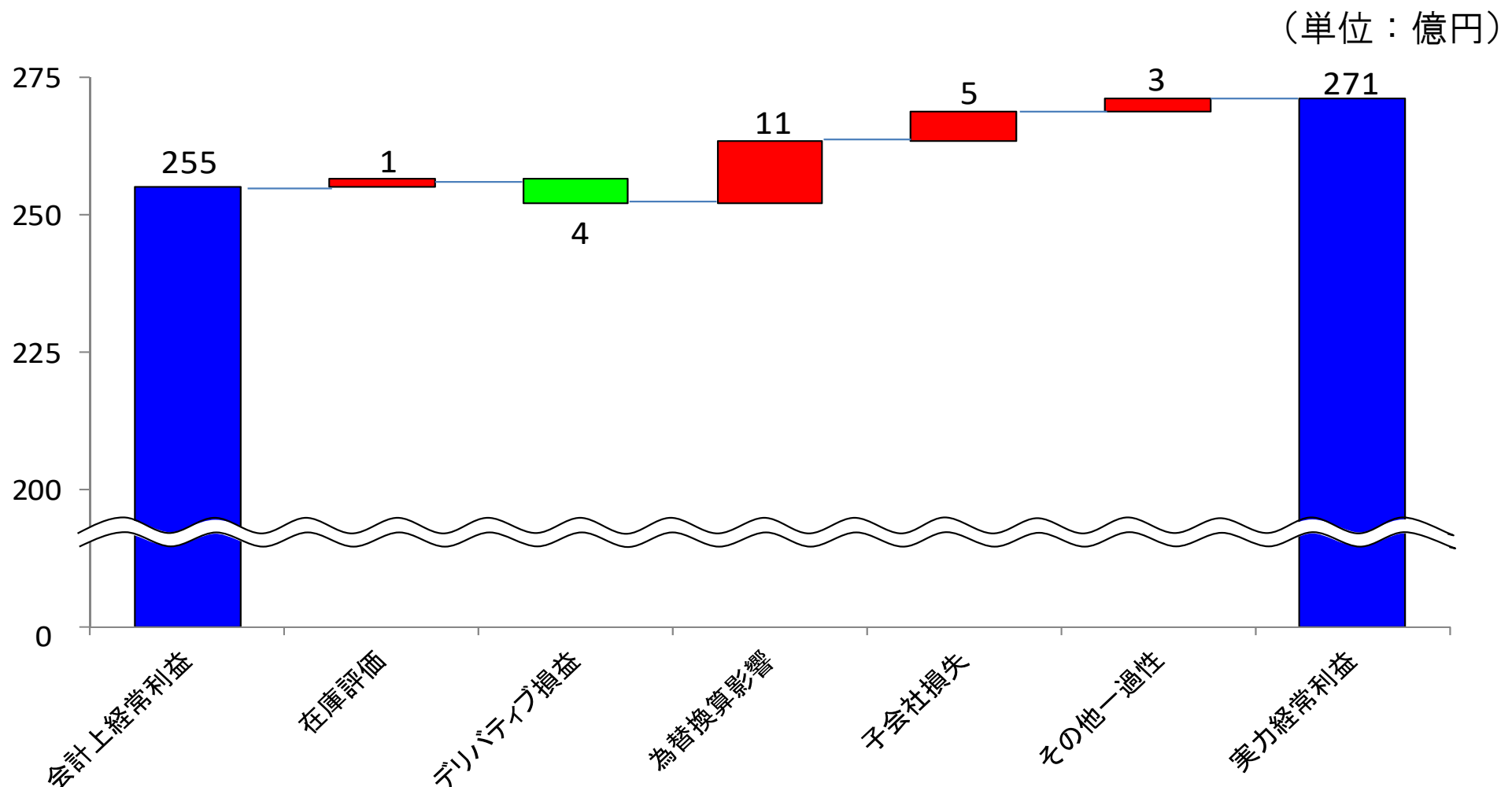
売上高は鋼材や資源価格の回復につれて、上昇に転じている。

親会社株主に帰属する当期純利益は、28年3月期の不動産売却による税金の押し下げ効果の影響を除けば、堅調に増加推移している。

(単位：億円)



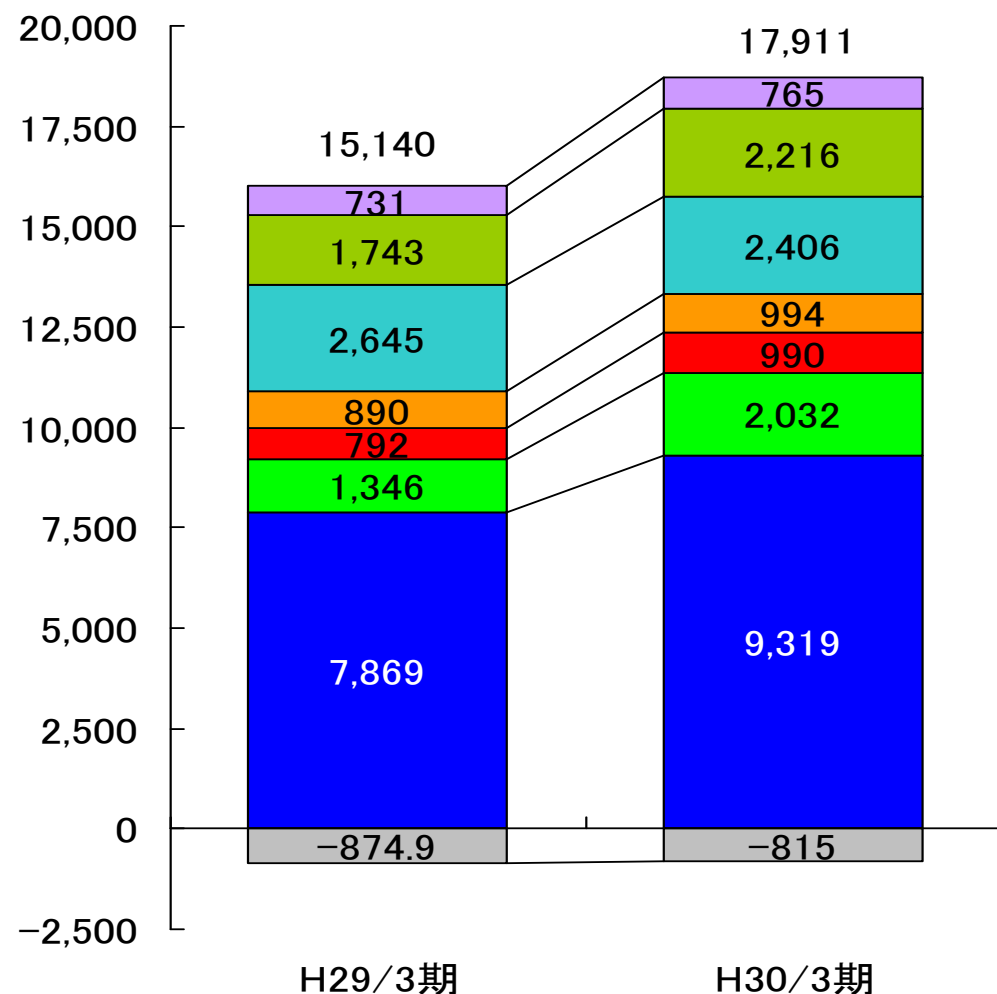
経常利益255億円に対し、在庫評価やデリバティブなど期末時価評価損益、子会社での一時的な損失など一過性の要素を除外した実力ベースでは、271億円程度の経常利益を実現（前期は232億円）。



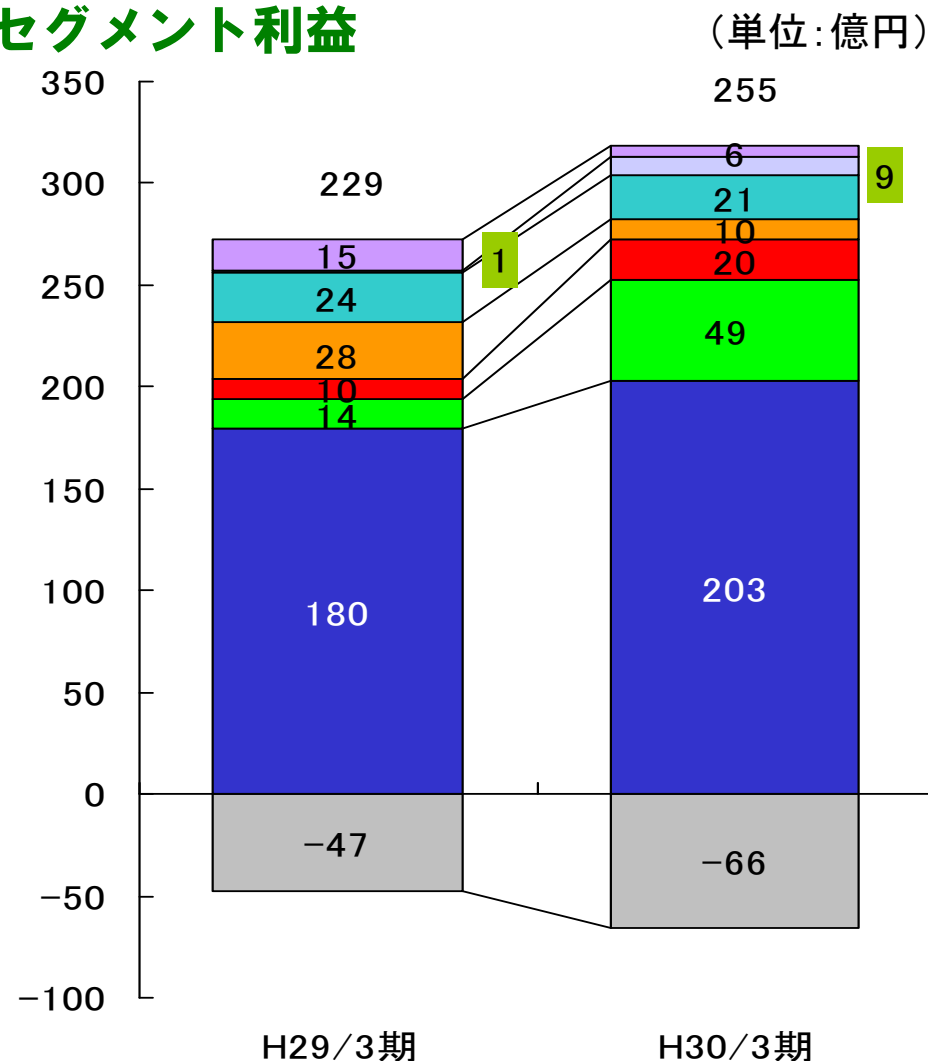
事業セグメント別の状況

取扱数量が減った石油化成品事業を除き、他の報告セグメントは増収に。
利益面では、金属原料事業や鉄鋼事業が増益の一方、前期好調だった食品事業は減益に。

売上高



セグメント利益



■ 鉄鋼 ■ 金属原料 ■ 非鉄金属 ■ 食品 ■ 石油化成品 ■ 海外販売子会社 ■ その他 ■ 調整

- ・ 総資産

売上債権や投資有価証券の増加などにより、前期末比24%の増加。

- ・ 有利子負債

運転資金需要の増加への対応や有価証券取得資金として借入金が増加し、前期末比25%の増加。ネットDERは1.5倍に微増。

- ・ 純資産

日本南ア・クロムの非支配株主持分の増加や親会社株主に帰属する当期純利益からの積み上がりなどにより、前期末比19%増。

(単位：億円)

	前期末	当期末	前期末比
総資産	6,942	8,619	+24%
負債	5,225	6,582	+26%
有利子負債	2,596	3,255	+25%
ネットDER	1.4倍	1.5倍	+7%
純資産	1,716	2,037	+19%
自己資本	1,704	1,878	+10%
自己資本比率	24.5%	21.8%	△2.7pt
1株当たり純資産	4,193.50円	4,621.96円	+10%

(1株当たり純資産は、10月に実施した株式併合(5株⇒1株)の影響を加味して再計算したものの。)

連結キャッシュ・フローの状況

- ・ 営業活動 C F
売上高の伸びに伴う運転資金需要の増加などにより、197億円の支出。
- ・ 投資活動 C F
投資有価証券の取得や長期貸付金の実行などにより、399億円の支出。
- ・ 財務活動 C F
資金需要の増加に対応した長短借入金などによる調達増加により、664億円の収入。

(単位：億円)

	前 期	当 期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	39	△197	△237
投資活動によるキャッシュ・フロー	△184	△399	△215
財務活動によるキャッシュ・フロー	154	664	+509
現金及び現金同等物期末残高	272	348	+76

平成31年3月期(通期)の連結業績予想

- ・売上高予想

引き続き各分野の需要は堅調に推移すると見込まれ、12%増を予想。

- ・利益予想

本体、子会社ともに着実に利益増を見込む他、前期収益貢献できなかったSAMANCOR社の持ち分法投資収益も増加を見込む。

(単位：億円)

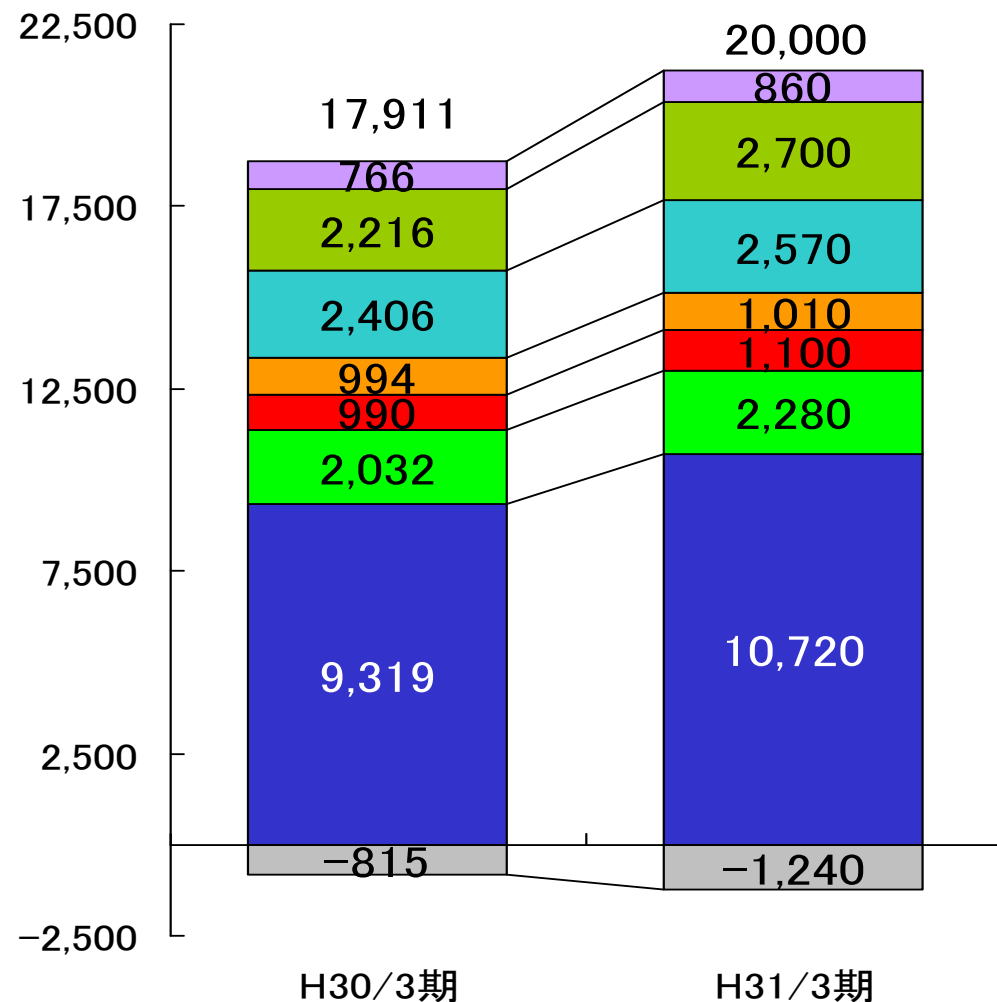
	平成30年3月期 (実績)	平成31年3月期 (予想)	増減比
売上高	17,911	20,000	+12%
営業利益	262	310	+18%
経常利益	255	300	+18%
親会社株主に帰属する 当期純利益	173	195	+12%

事業セグメント別予想

売上高は、各セグメント着実に増加を見込む。

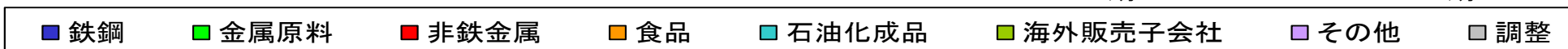
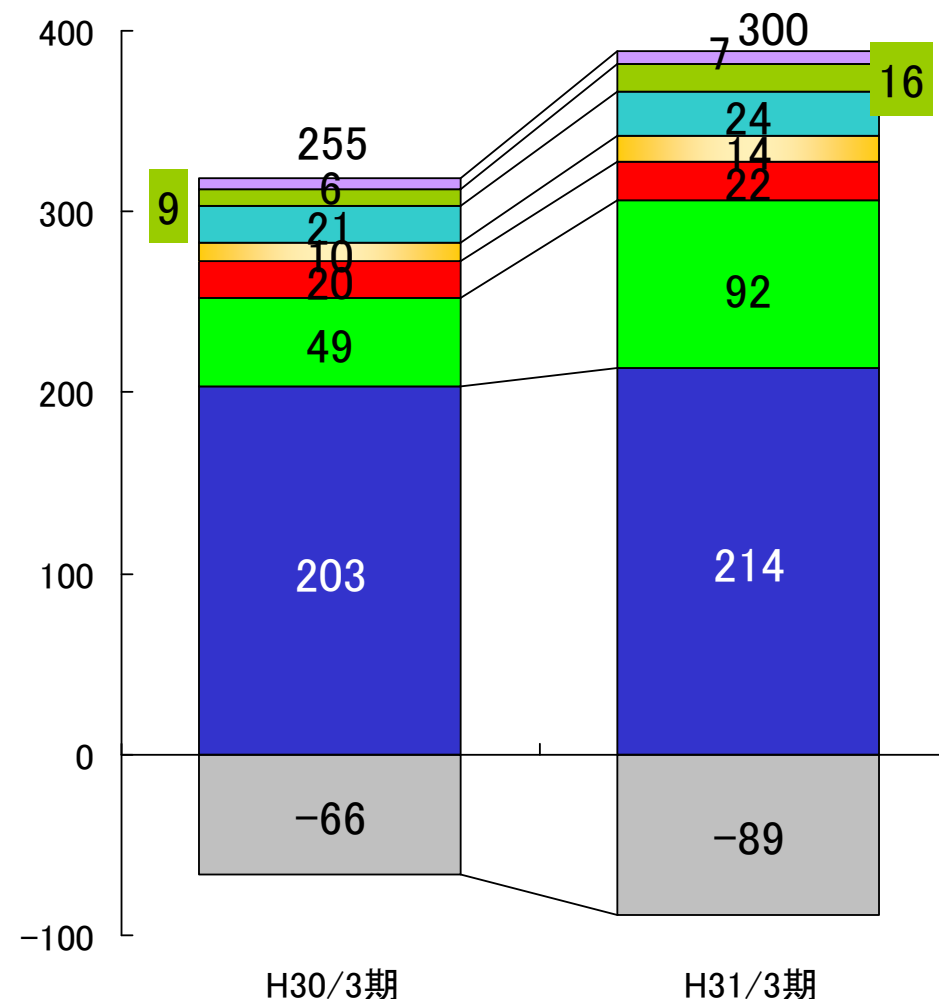
利益は、持分法投資利益の増加が見込まれる金属原料事業で大きく増加。

売上高



セグメント利益

(単位：億円)



【配当方針】

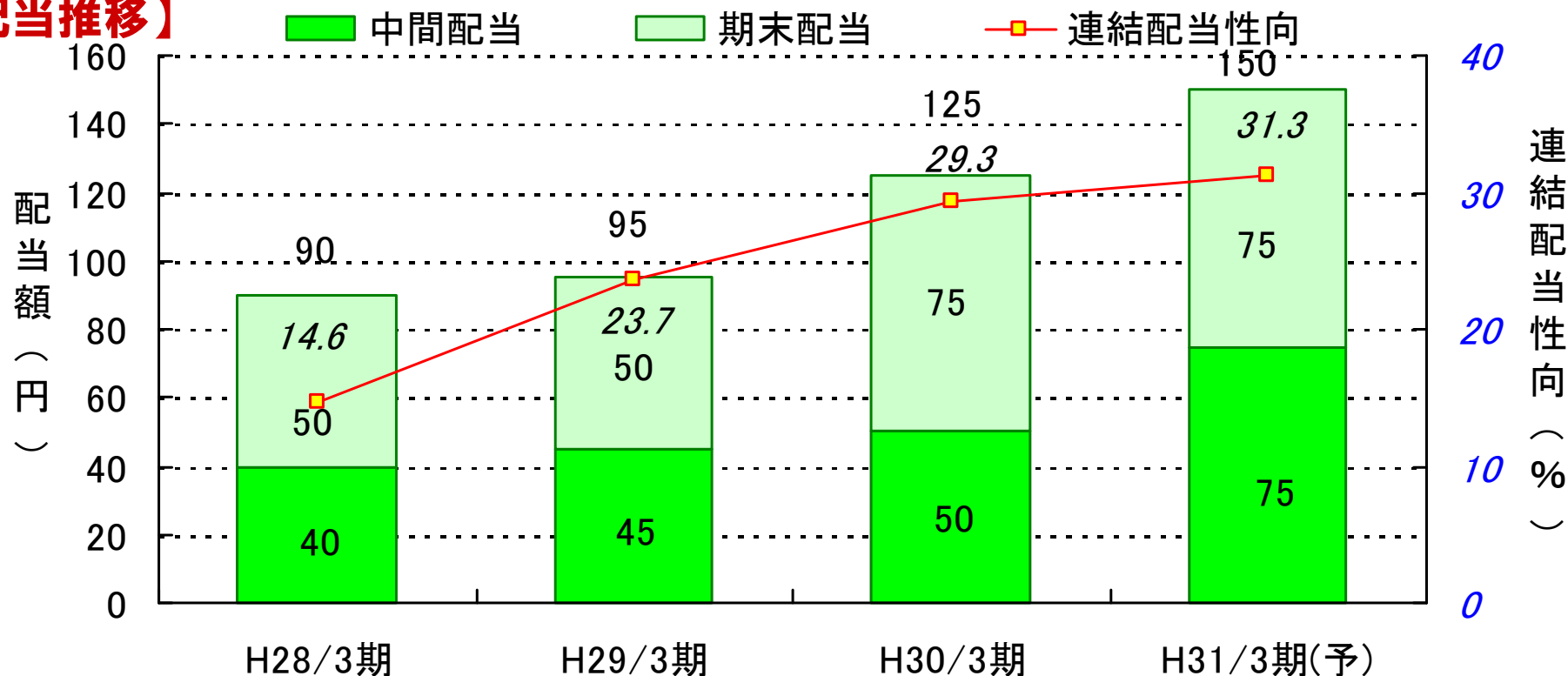
安定した配当を継続して実施することを第一義に、収益力の向上に努め、基礎的な収益水準の上昇とともに、戦略的投資からの利益回収状況に合わせて、配当額の増加を目指してまいります。

(配当予定)

H30/3期 期末配当 1株当たり75円（普通配当65円、70周年記念配当10円）

H31/3期 中間配当 1株当たり75円、期末配当1株当たり75円

【配当推移】



(過年度の配当は、10月に実施した株式併合（5株⇒1株）の影響を考慮して再計算したもの。)

鉄鋼事業セグメントの状況

(単位：億円)

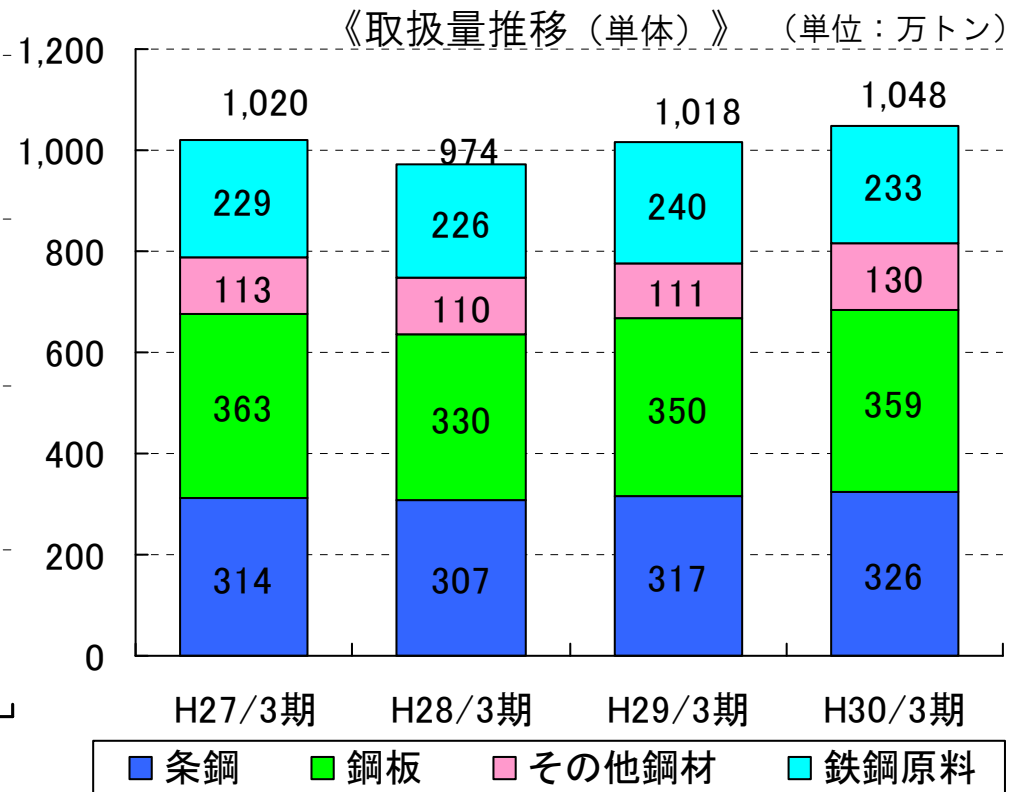
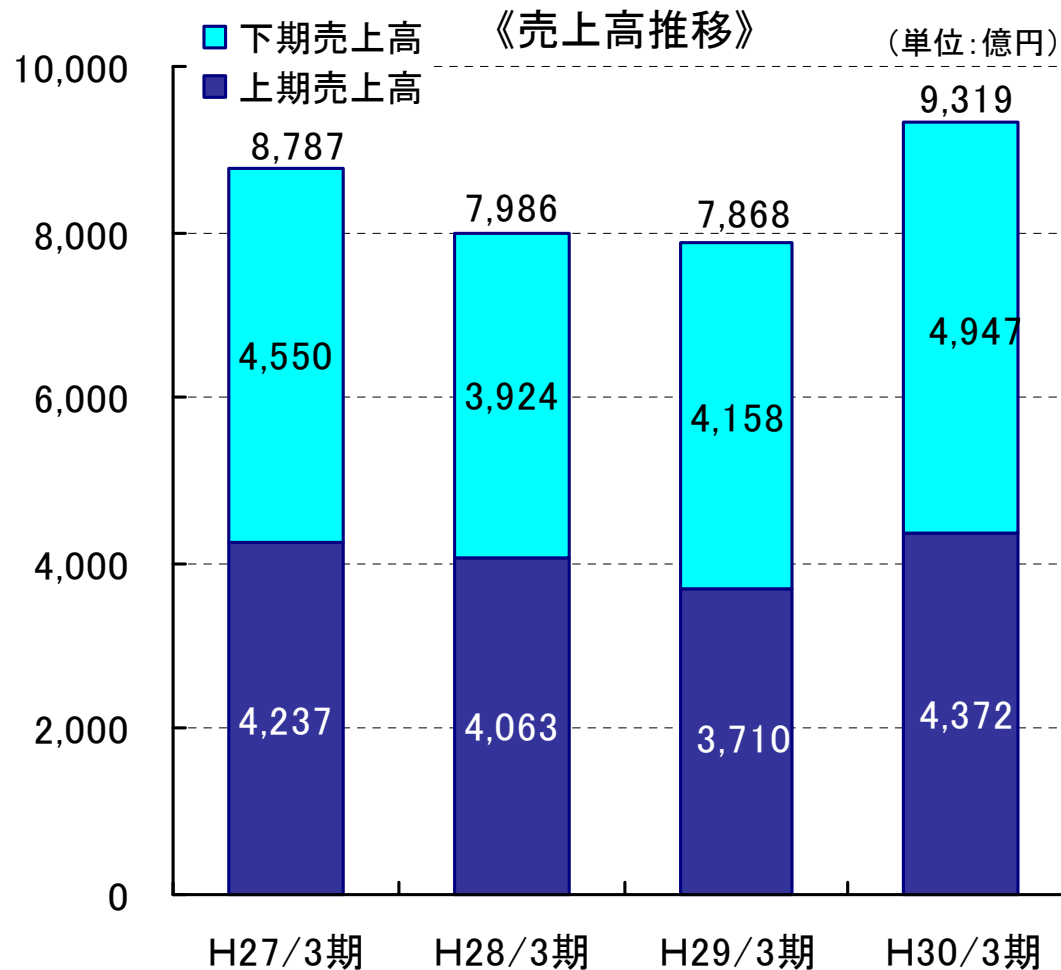
	前 期	当 期	増減比
売 上 高	7,868	9,319	+18%
セグメント利益	180	203	+12%

・売上高

鋼材需要は堅調に推移し、取扱量は増加。単価水準も切り上がり、増収。

・セグメント利益

鋼材価格の上昇局面、特に年度前半で、紐付き・店売り分野で利幅が拡大。



金属原料事業セグメントの状況

(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	1,346	2,032	+51%
セグメント利益	14	49	+251%

・売上高

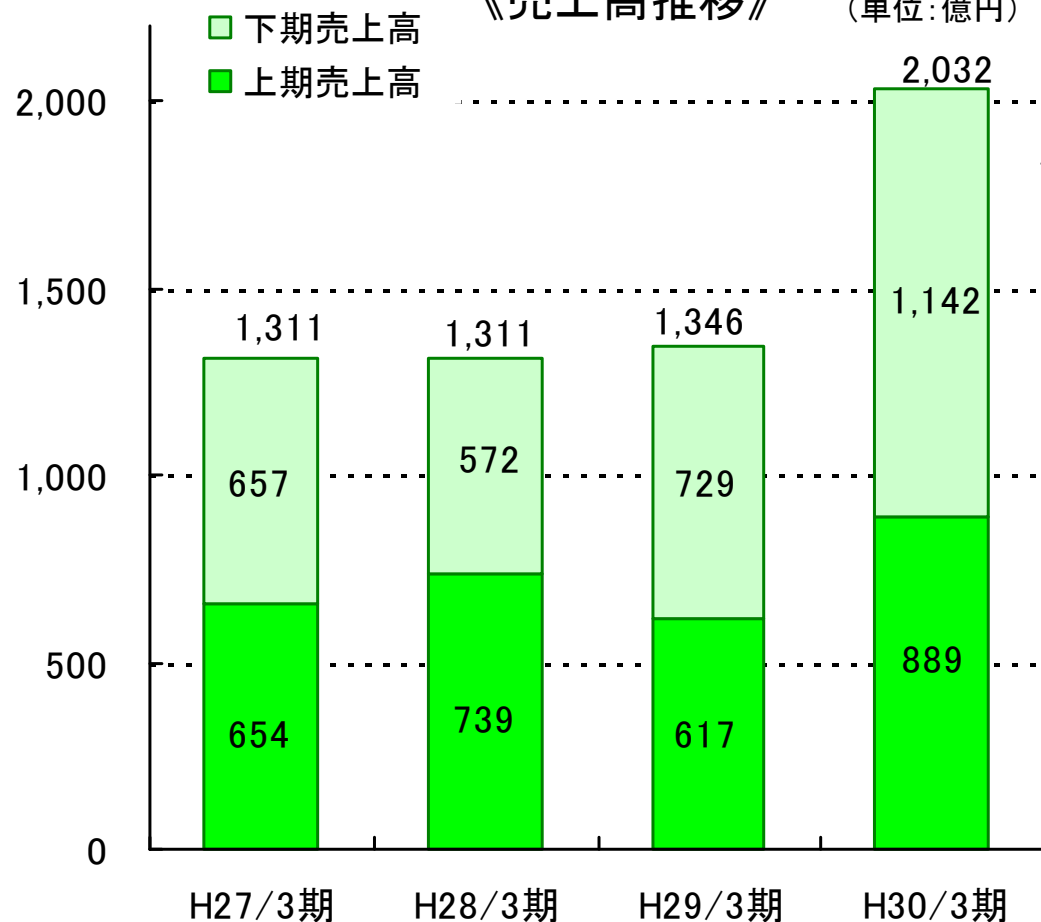
合金鉄価格が上昇基調にあった他、クロム系・マンガン系合金鉄やステンレス原板の拡販により増収。

・セグメント利益

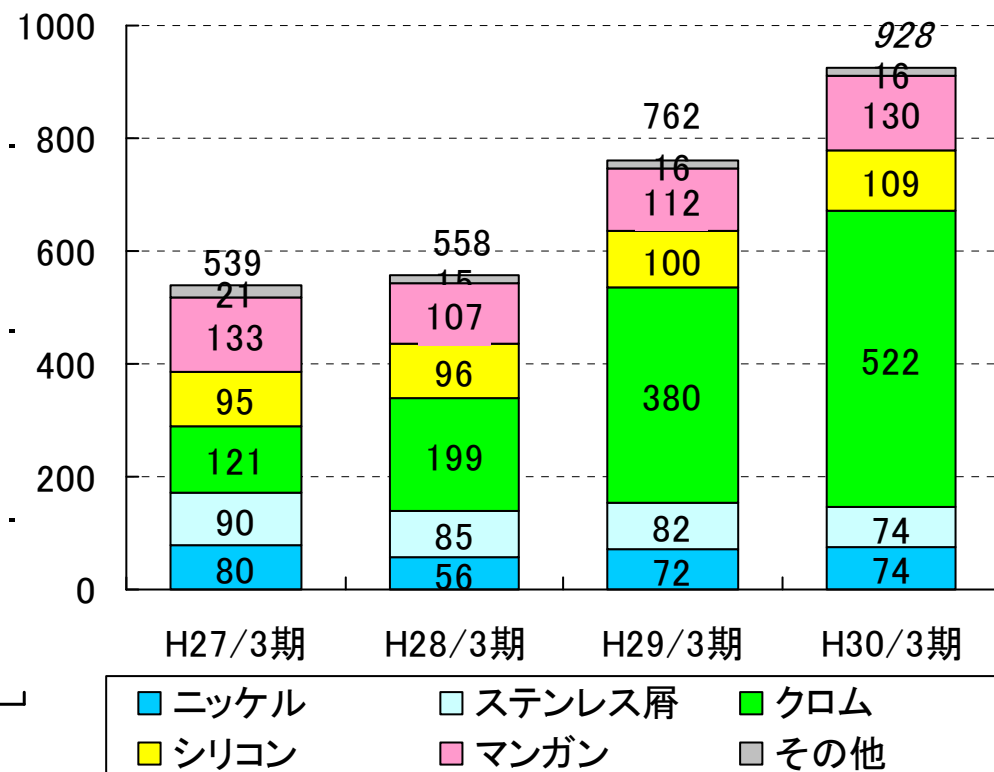
合金鉄販売での利益増に加え、前期赤字だった昭和メタルの収益が改善し、増益。

《売上高推移》

(単位：億円)



《取扱量推移 (単体)》 (単位：千トン)



非鉄金属事業セグメントの状況

(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	792	990	+25%
セグメント利益	10	20	+88%

・売上高

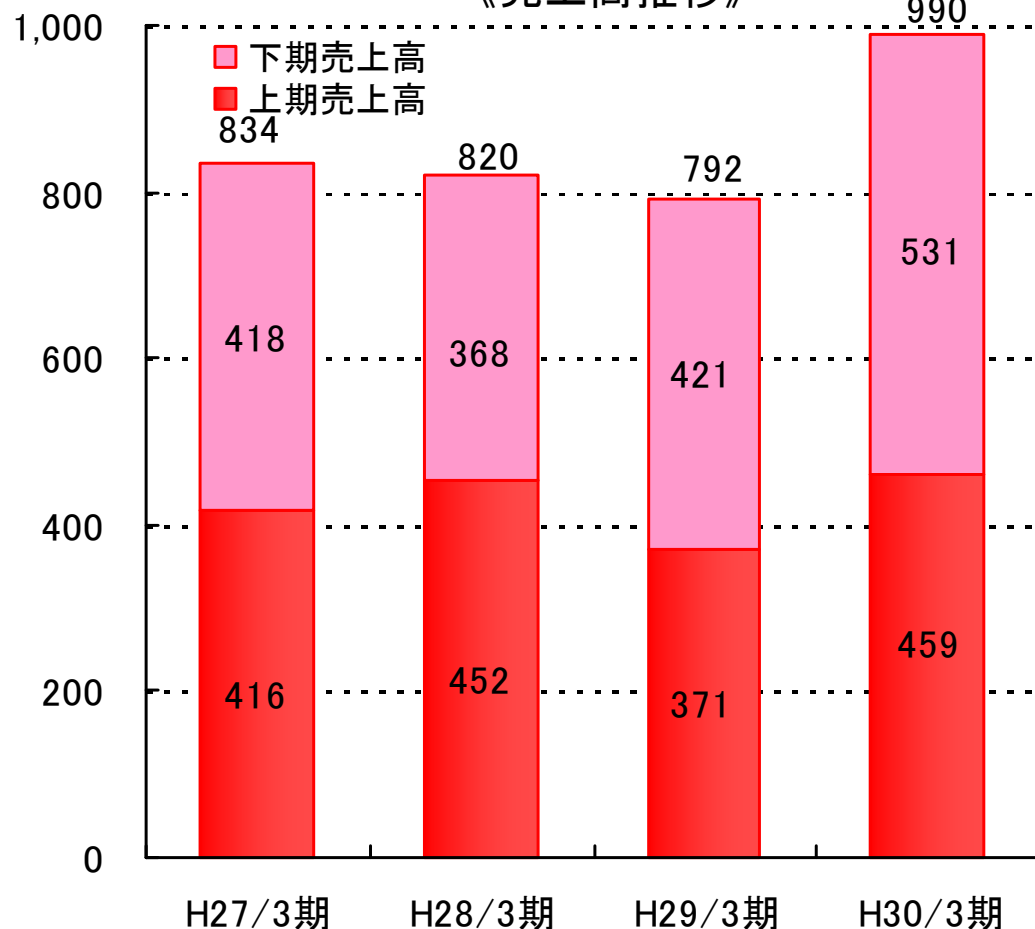
アルミ・銅などの金属価格上昇と銅スクラップの販売増などにより増収。

・セグメント利益

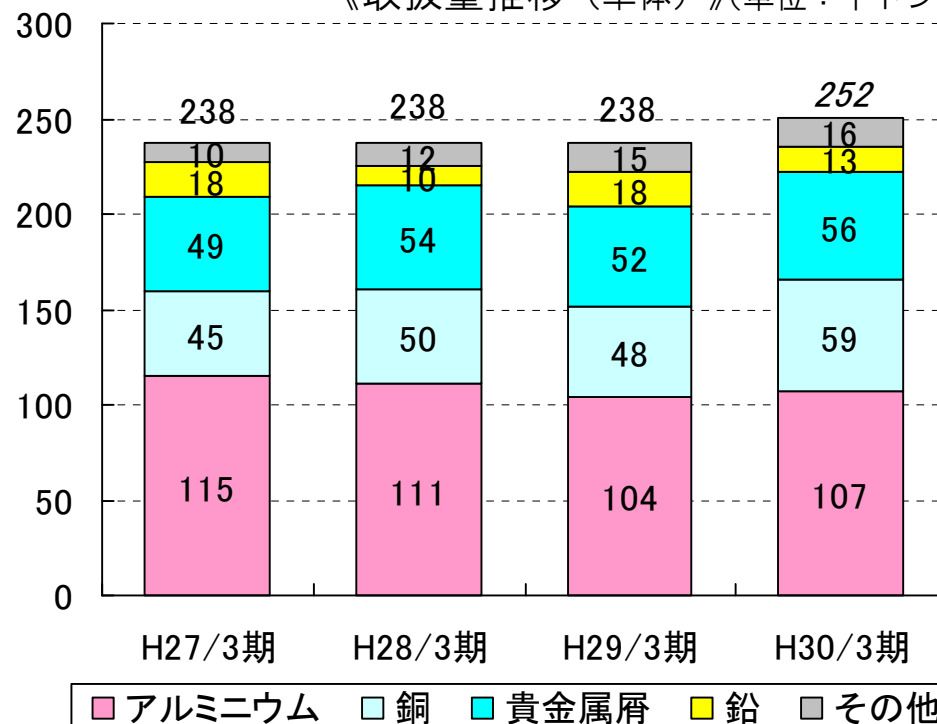
商品価格の上昇による事業収益の増加に加え、前期為替差損が当期は差益となったことも寄与し、増益。

《売上高推移》

(単位：億円)



《取扱量推移 (単体)》(単位：千トン)



食品事業セグメントの状況

(単位：億円)

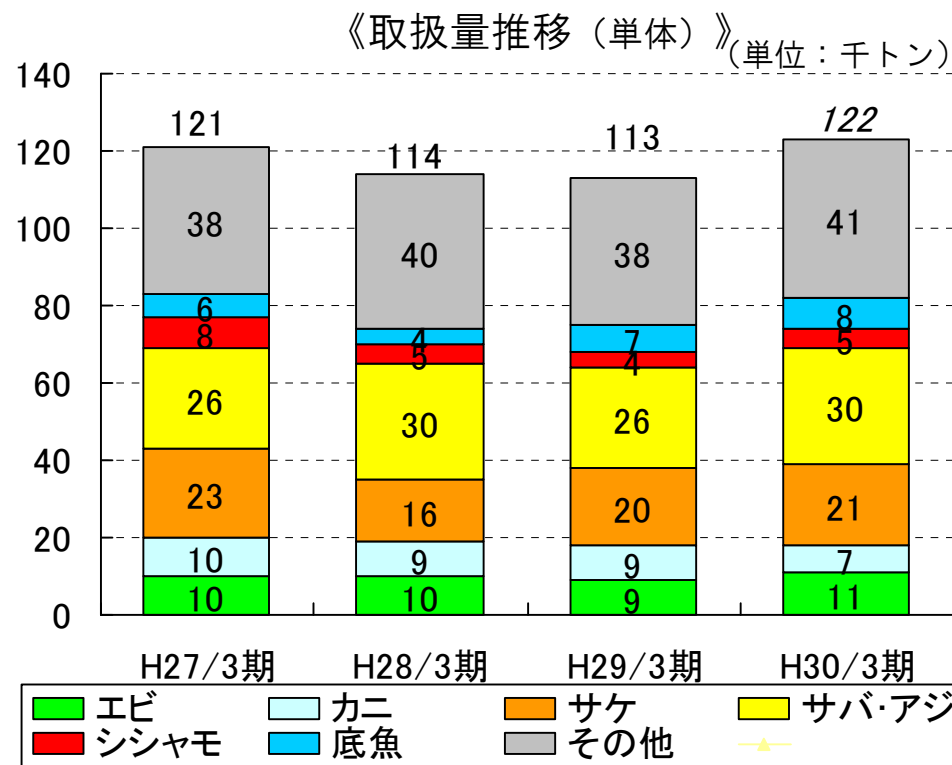
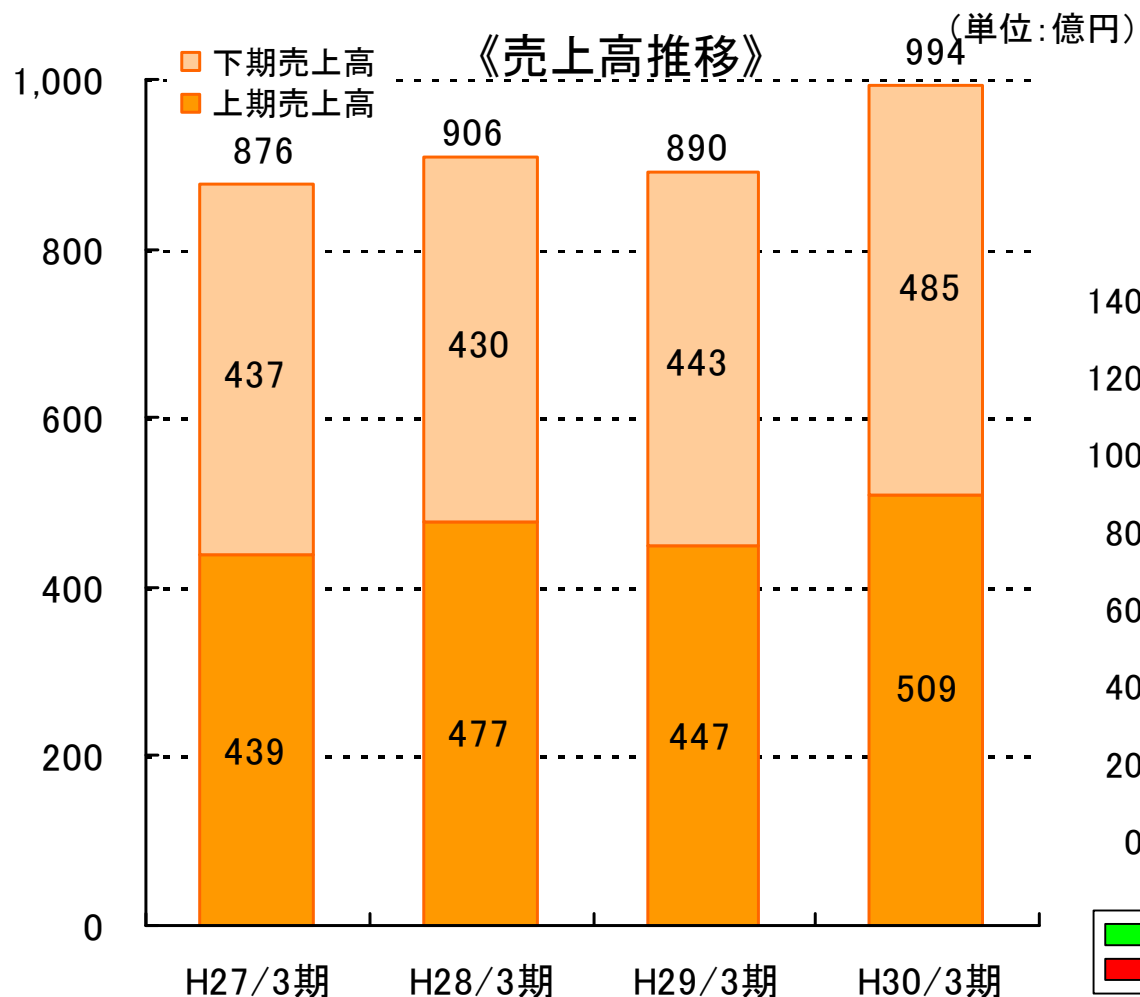
	前 期	当 期	増減比
売 上 高	890	994	+12%
セグメント利益	28	10	△63%

・売上高

海外での水揚げ量や漁獲枠の減少、低い在庫水準により、エビ、サケなど主力商品の価格が高止まりする中、取扱量も堅調で、増収。

・セグメント利益

産地価格の上昇により、仕入れコストが前期に比べ上昇したことから減益。



石油・化成品事業セグメントの状況

(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	2,644	2,406	△9%
セグメント利益	24	21	△12%

・売上高

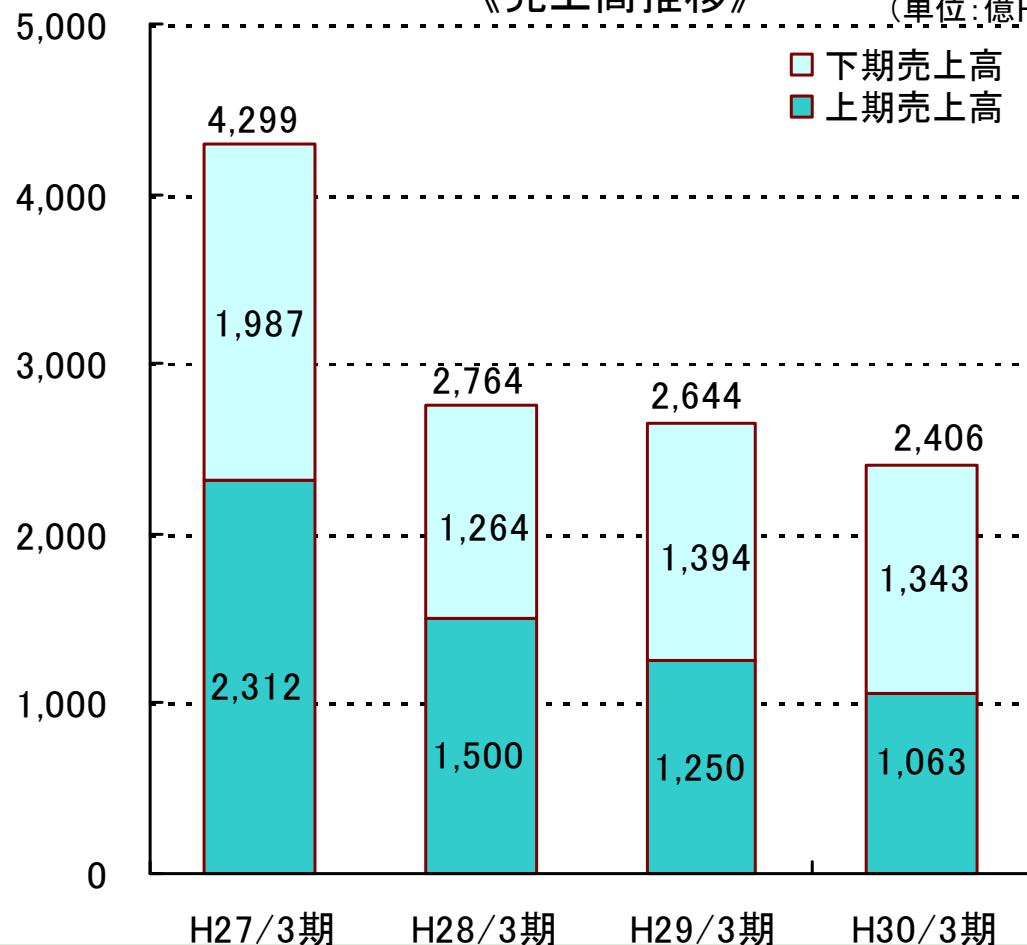
石油製品価格は原油価格の上昇により前期に比べ高水準も、スポット取引の大幅な減少により、減収。

・セグメント利益

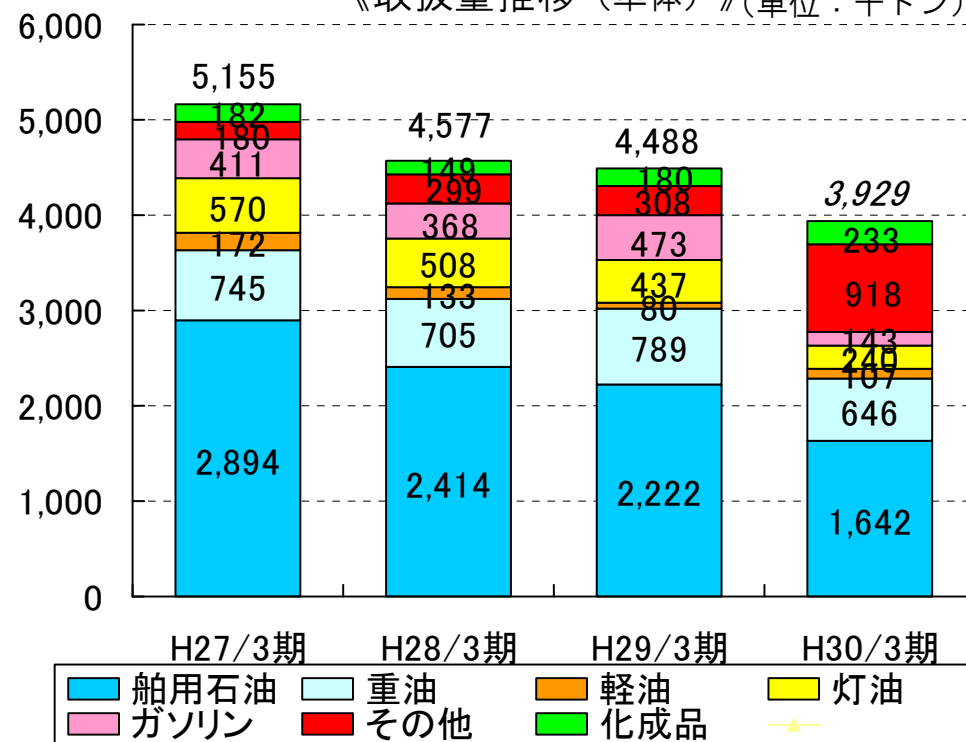
取引量の減少に加え、前期好採算だった輸入雑貨販売の利益も平準化し、減益。

《売上高推移》

(単位：億円)



《取扱量推移 (単体)》(単位：千トン)



海外販売子会社セグメントの状況

(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	1,742	2,216	+27%
セグメント利益	1	9	+383%

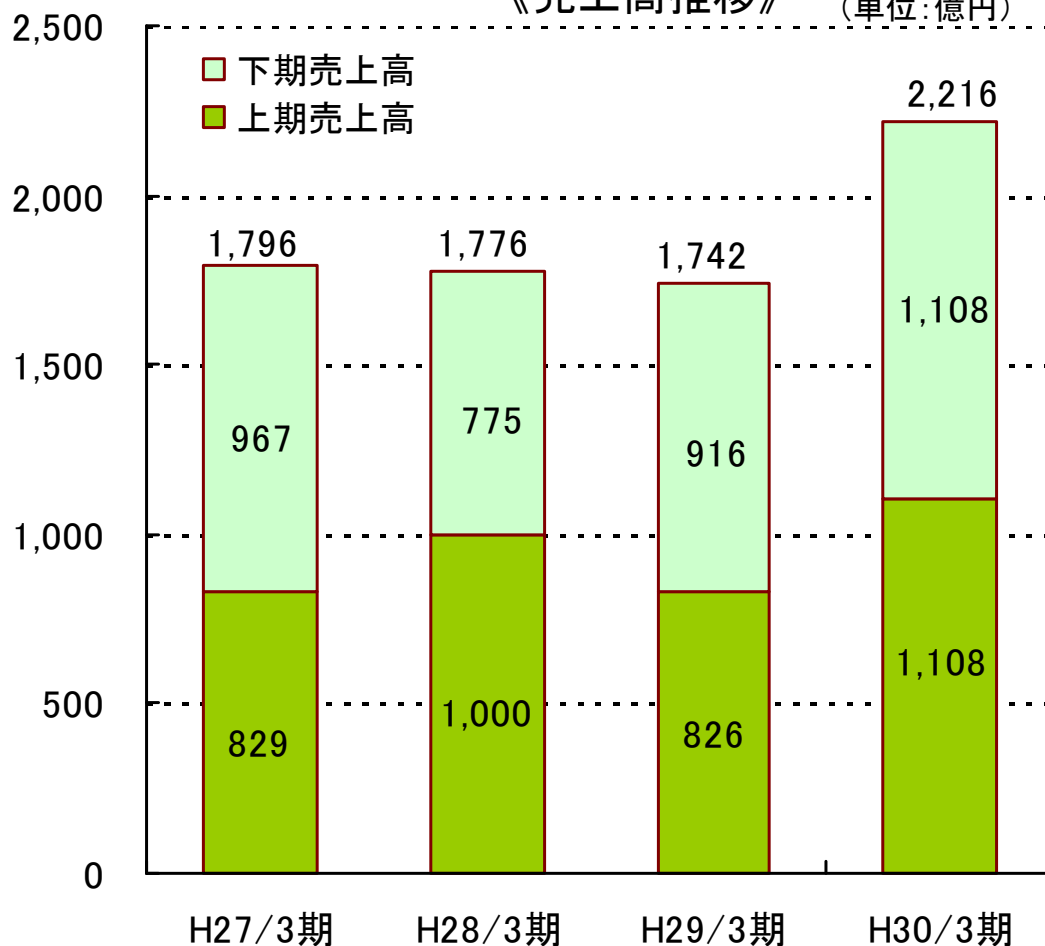
・売上高

商権移管したシンガポールでの船用石油やタイ・シンガポールでの金属スクラップ、インドネシア・北米での鋼材の販売増により増収。

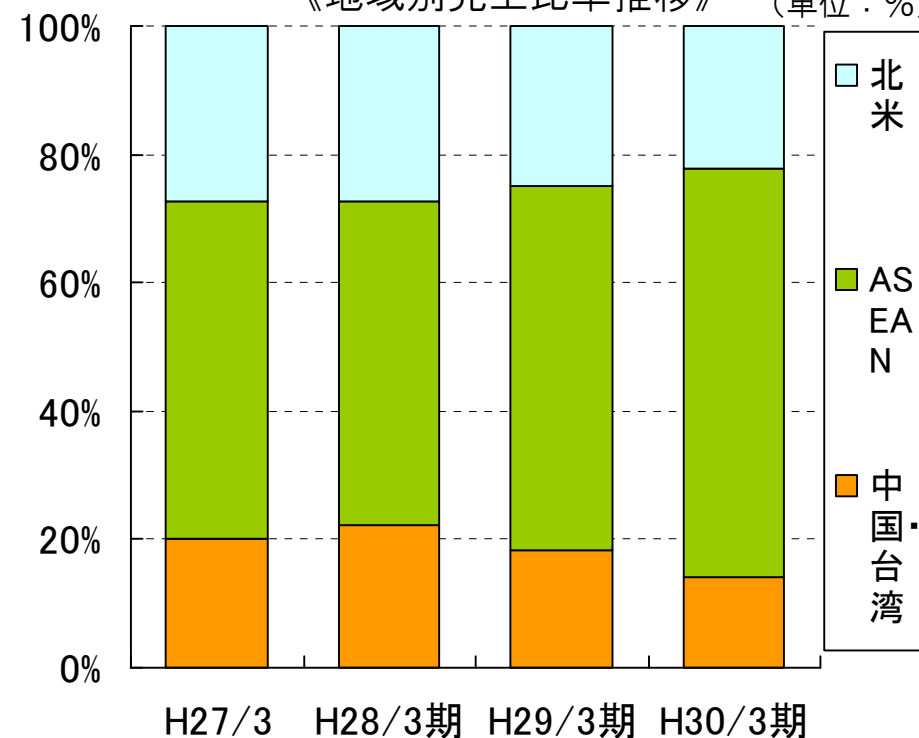
・セグメント利益

シンガポール・インドネシア中心に売上増加に伴う利益増により、増益。

《売上高推移》 (単位：億円)



《地域別売上比率推移》 (単位：%)

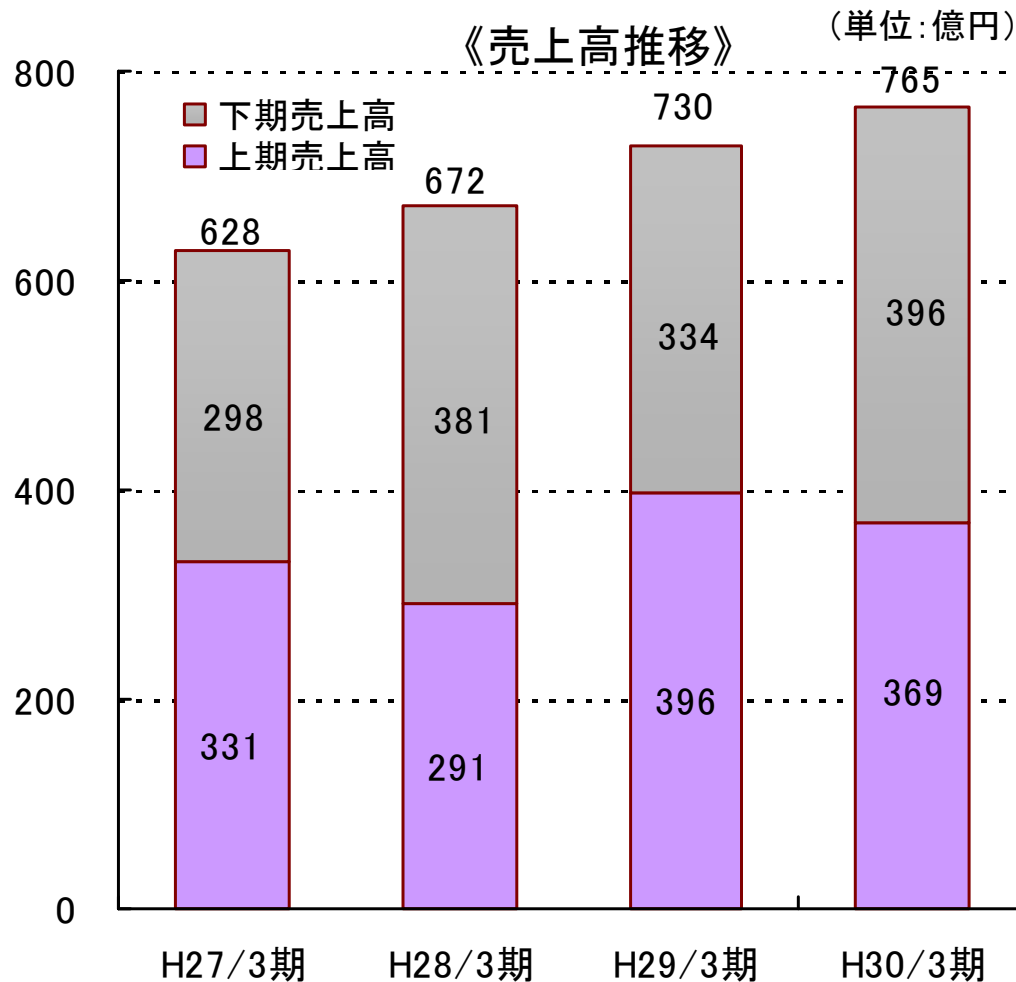


その他の事業の状況

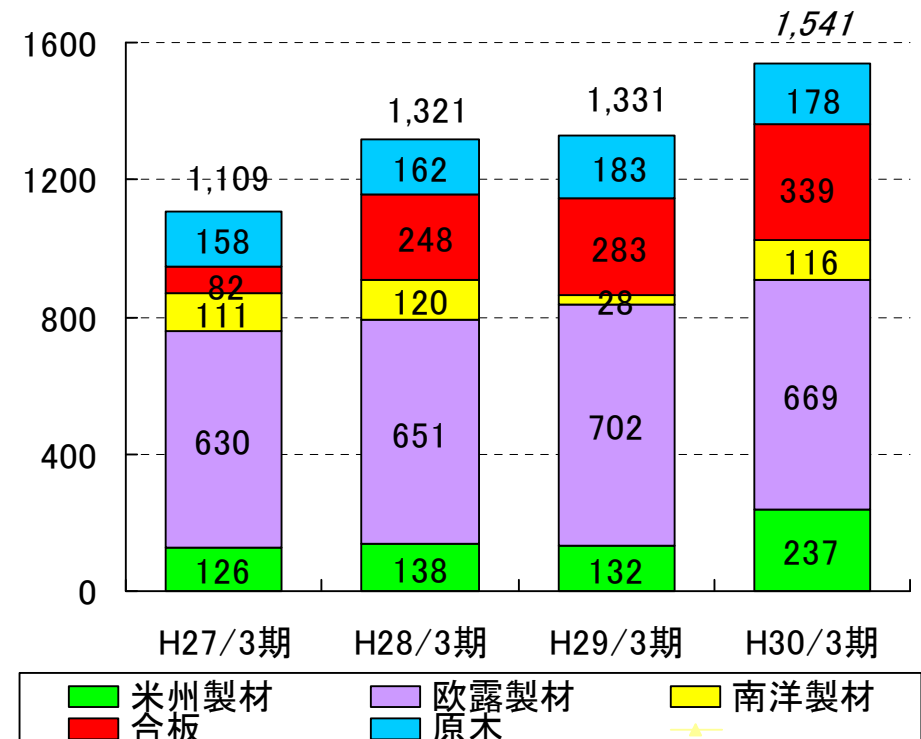
(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	730	765	+5%
セグメント利益	15	6	△55%

木材事業は住宅メーカー向けなどへの販売が堅調で増収も、コスト高により利幅は縮小。前期に収益に貢献した機械事業でのレジャー機械の完工収入が当期はなく、減益。



《木材取扱量推移 (単体)》 (単位：千m³)



経常利益は増加したものの、投下資本も増加したことから、ROICは微減。
運転資金や投資資金需要の増加により有利子負債が増加、ネットDERは微増。
新規取引社数は4年間で2,700社の目標に対し、直近2期で48%の進捗。

【定量指標の推移】

		H27/3	H28/3	H29/3	H30/3	
ROIC（投下資本EBIT率）	(%)	4.4	4.5	6.2	6.1	
ネットDER	(倍)	1.8	1.4	1.4	1.5	
新規取引社数	(社)	665	705	697	601	
ROE（自己資本純利益率）	(%)	6.9	17.2	10.1	9.7	
	売上高純利益率	(%)	0.5	1.7	1.1	1.0
	総資産回転率	(%)	279.1	241.7	234.0	230.2
	財務レバレッジ比率	(%)	471.5	422.3	397.8	434.4

中期経営計画の進捗状況

STEADY・SPEEDYについては、通期予想を超過達成。
STRATEGICについては、クロム価格の下落によるSAMANCOR社からの持ち分利益の減少と持分法適用初年度の償却負担により、未達に。

	H30年3月期	目標	実績	達成度
	STRATEGIC 資源投資からの配当・ 持分法投資収益	15	△6	—%
	SPEEDY 連結子会社経常利益 + 非連結子会社配当等	45	58	131%
	STEADY 単体経常利益 (子会社配当控除後)	180	201	112%
Total		240	255	106%

鋼材価格の上昇などにより、鉄鋼事業の子会社が内外ともに好調で増益。

金属原料は前期赤字の昭和メタルの収益改善。子会社全体では29億円の利益増。

【セグメント別グループ会社の経常利益推移】

(単位：億円)

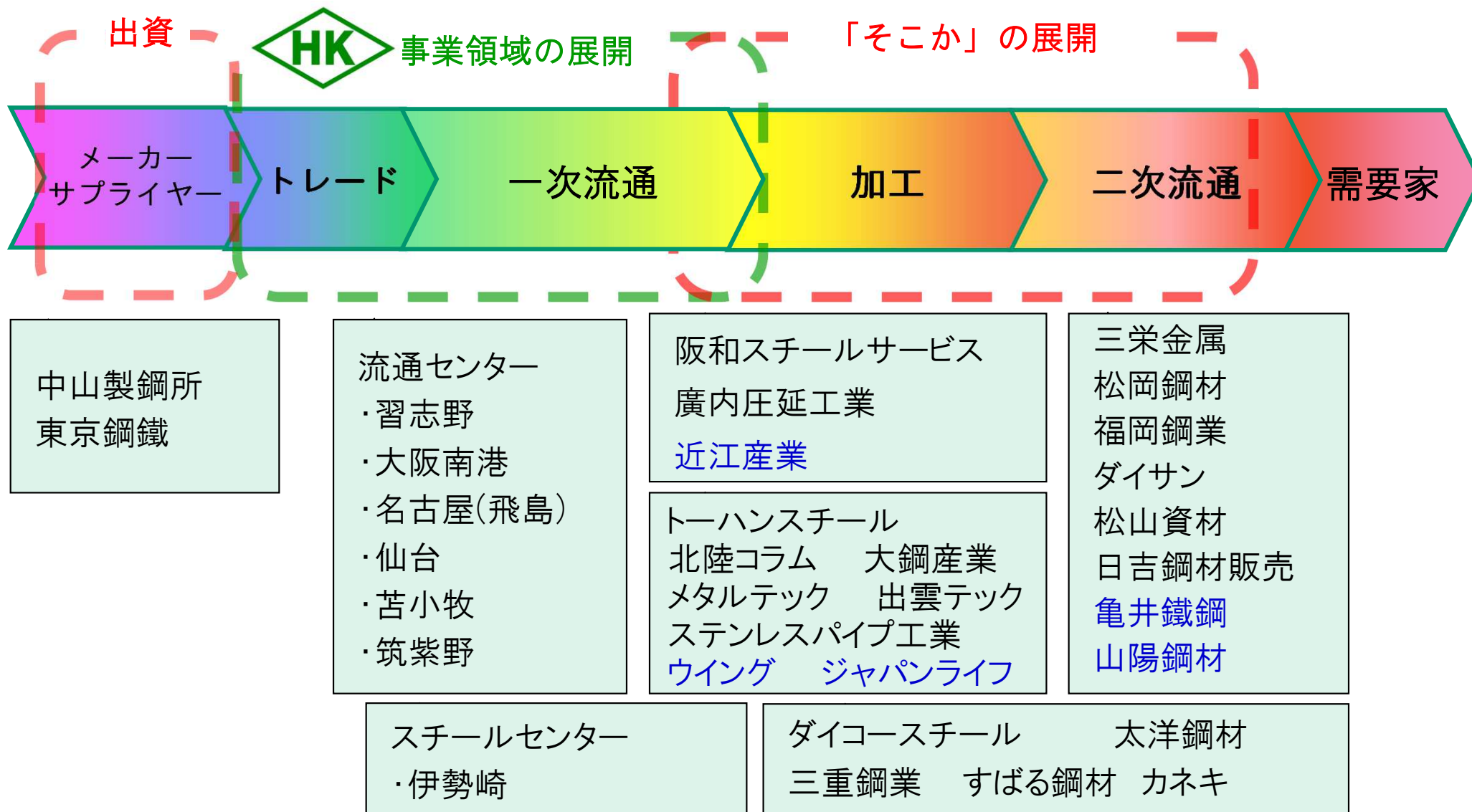
	前 期		当 期		増減額	
	連結子会社	非連結子会社	連結子会社	非連結子会社	連結子会社	非連結子会社
鉄鋼	26.1	4.0	42.1	6.9	+16.0	+2.9
金属原料	△5.1	0.0	2.2	0.3	+7.3	+0.3
非鉄金属	2.5	1.1	2.6	2.6	+0.1	+1.5
食品	3.7	0.0	△1.8	0.1	△5.5	+0.1
石油・化成品	4.0	0.5	2.7	0.5	△1.3	+0.0
海外販売子会社	2.2	△1.2	6.8	0.8	+4.6	+2.0
その他	2.1	1.4	3.2	1.9	+1.1	+0.5
合 計	35.7	6.0	58.0	13.4	+22.3	+7.4

(合計は各社利益の単純合算、前期の連結・非連結区分は、当期ベースに組替)

国内バリューチェーン伸長戦略の状況

引き続き機能のある中小の鋼材卸売・加工業者をグループ化し、「そこか（即納・小口・加工）戦略」を推進。

今期は亀井鐵鋼、山陽鋼材、ウイング、近江産業、ジャパンライフがグループ入り。



東南アジアに第二の阪和戦略の進捗状況

当社のビジネスモデルをASEAN地域に浸透させるために、現地の有力な流通業者とのアライアンスや日系企業との共同進出を拡大している。

【主要なアライアンス先】

国	流通	加工	製造
タイ		HSS Thailand PCM Processing	Furukawa Unic Siam Hanwa
インドネシア	Kapurindo Sentana Baja	HSS Indonesia	Araya Steel Tube Indonesia
シンガポール	CosmoSteel Holdings HG Metal Manufacturing		JFE Meranti Myanmar
ベトナム	SMC Trading TON DONG A CORP.	NSSB Saigon Coil Center	Nippon Steel & Sumikin Pipe Vietnam SMC Toami Sendo Steel Pipe
マレーシア	TATT GIAP Group	Eversendai Corp. TATT GIAP Steel Centre	Nippon Egalv Steel Bahru Stainless
フィリピン			Sohbi Kohgei (Phlis)

戦略的投資の状況

市場規模は小さいながらも、産業界にとって不可欠なもので、最大需要地である中国での産出の少ない金属資源を対象に実施。

AFARAK

FeCr、SiMn製造
(2017年売上重量
10万 t)



OM Holdings

FeSi、Mn合金製造
(2017年売上重量
38万 t)



Bacanora Lithium

炭酸Li製造
(2019年稼働年3.5万t生産)



SAMANCOR

Cr鉱石、FeCr製造
(FeCr約155万t/
年生産)



青山控股集团

NPI~ステンレスH/C製造
(NPI約150万t/年、
H/C300万t/年生産)



WATERBERG JV

白金族製造

将来の利益積み増しのため、当期も事業投資を積極的に推進。SAMANCOR社への追加出資や北関東スチールセンターの新設、鉄鋼事業でのそこか投資など約291億円の投資を実施。

【当期の主な事業投資実績】

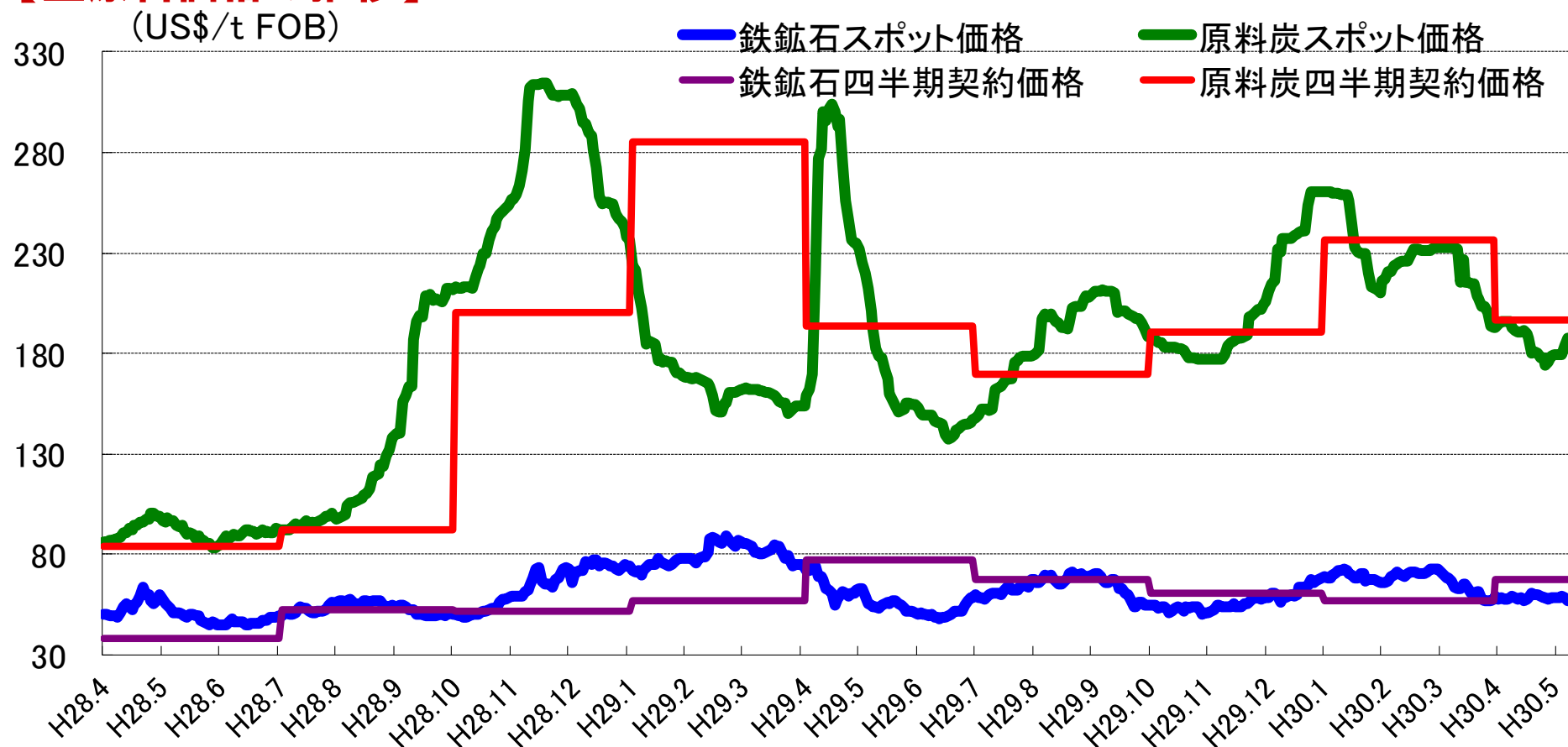
	総額	主な投資内容
鉄鋼事業	123億円	<ul style="list-style-type: none">・ 北関東スチールセンター新設・ ジャパンライフ子会社化・ 日鴻不銹鋼（上海）子会社化・ SMC Trading追加出資・ 亀井鉄鋼子会社化・ 山陽鋼材子会社化・ 近江産業出資・ ブリヂストン化工品ジャパン/冷熱事業承継
金属原料・ 非鉄金属事業	156億円	<ul style="list-style-type: none">・ SAMANCOR社追加出資・ Bacanora Minerals出資
海外販売子会社	6億円	<ul style="list-style-type: none">・ 子会社の資本増強

参 考 資 料

鉄鉱石…中国国内鋼材製品市況に連動した傾向が強く、足下は、鋼材需要の方向感を探りながら様子見で、小幅な値動き。

原料炭…期初の豪州サイクロン被害による急騰、反落後は、豪州の港湾の滞船問題で上昇も、その後は弱基調でジリ下げ。

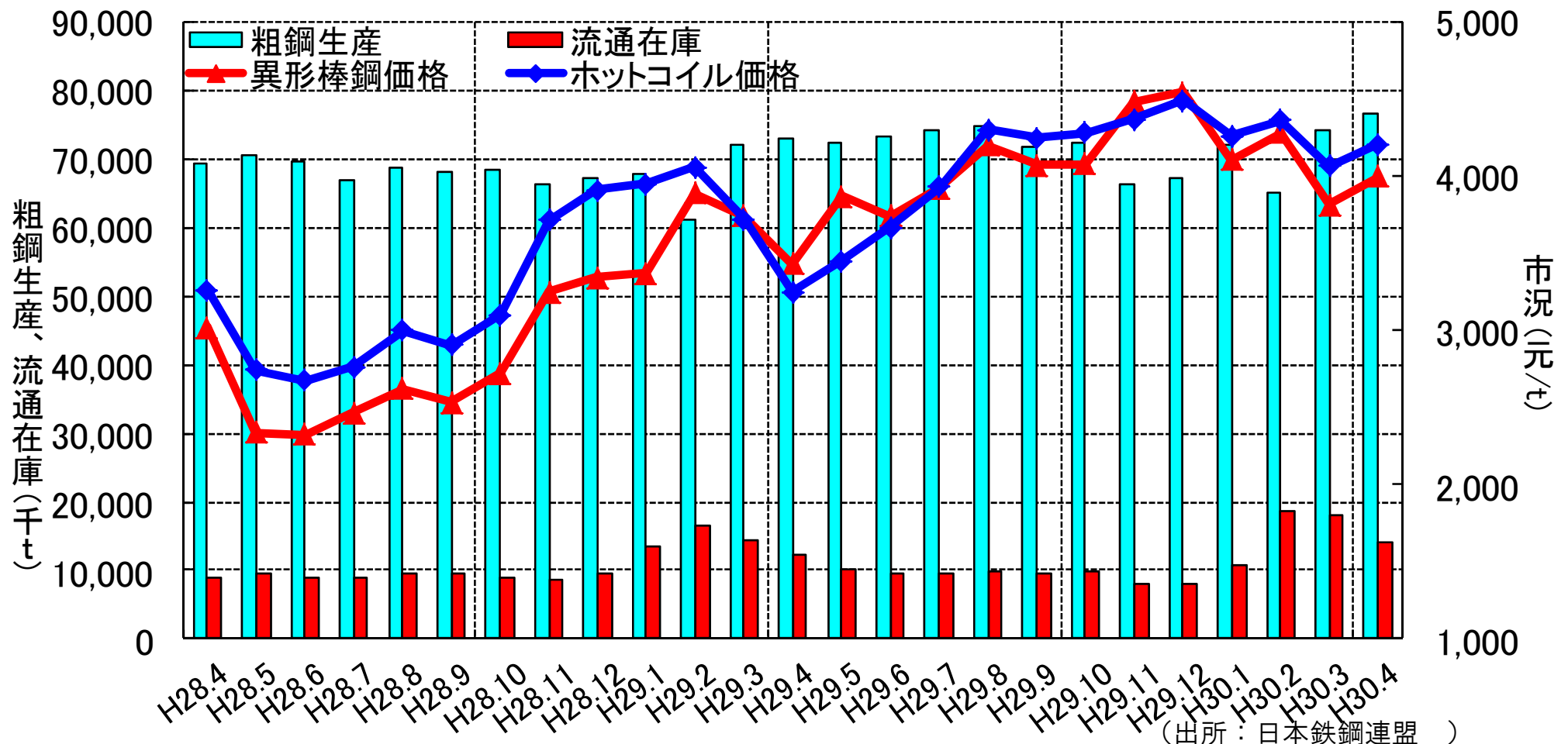
【主原料価格の推移】



鉄鋼需給…地条鋼の生産停止により、正規の鋼材需要が増加。ミルは増産方向に傾くも、当局の操業規制の影響もあり、国内需給は均衡。

市中価格…地条鋼廃止により、現物在庫が減少し、鋼板類含め価格は上昇。冬場の不需要期に入るも、生産規制もあり堅調推移。

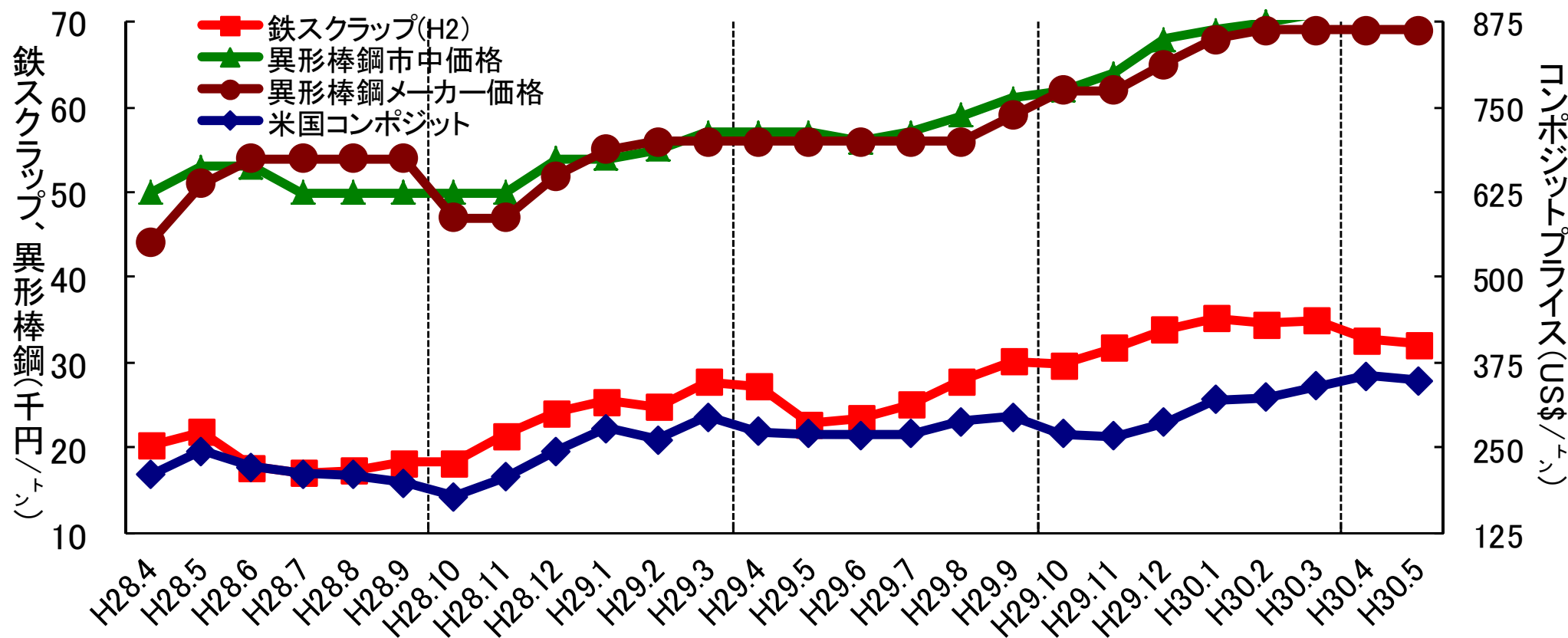
【鉄鋼需給と鋼材市況の推移】



需給動向…中国での地条鋼廃止により鋼材生産が増加、ビレットの海外流出がなくなり、アジア圏の鉄スクラップ需給は総じてタイト。

市況動向…スクラップの国際市況が上昇する中で、国内電炉も購買価格の上げで対応。上げ下げありつつも、総じて高い価格帯に。

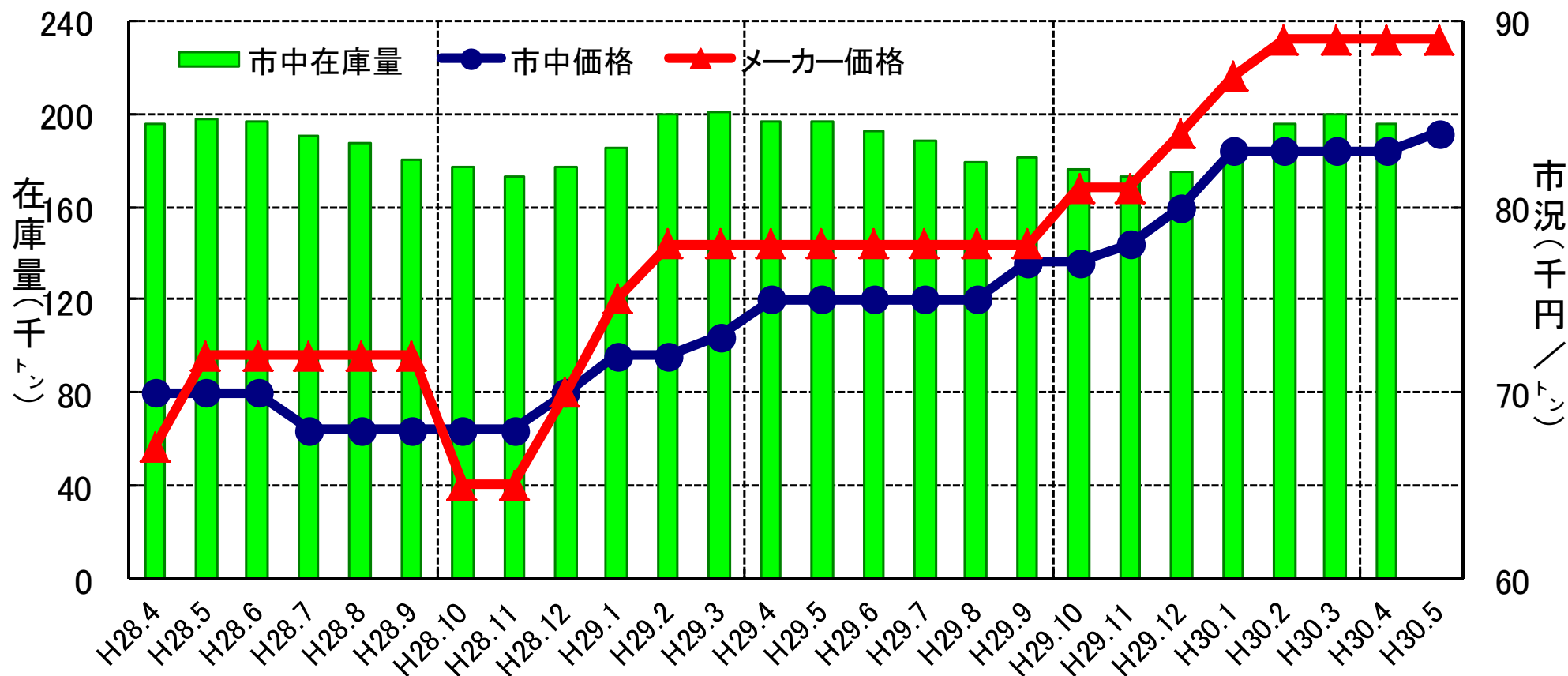
【鉄スクラップと異形棒鋼市況の推移】



需給動向…大型建築物や土木向け需要は堅調に推移し、秋口から漸く全体需要も上向きも、足下は若干停滞感もあり。

市況動向…前期後半からの鉄鋼ミルの値戻し方針と需要の漸増傾向により、スポット価格も徐々に上昇。

【H形鋼 市中在庫量と市況の推移】

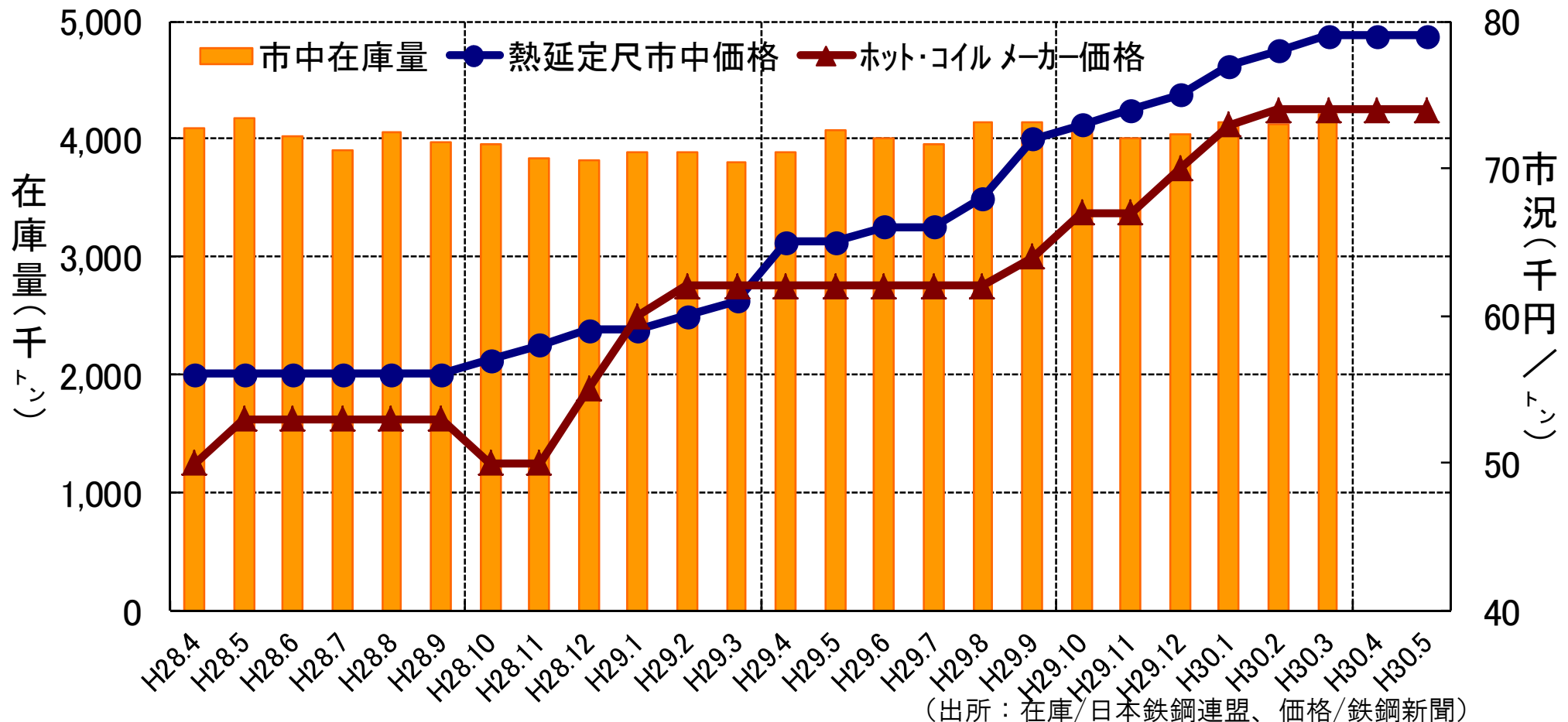


(出所：在庫/ときわ会、価格/鉄鋼新聞)

需給動向…製造業の稼働は概ね堅調で、鋼板需要は底堅く推移。鉄鋼ミルも炉修や不調により、大幅な増産はできず、タイト感がでた。

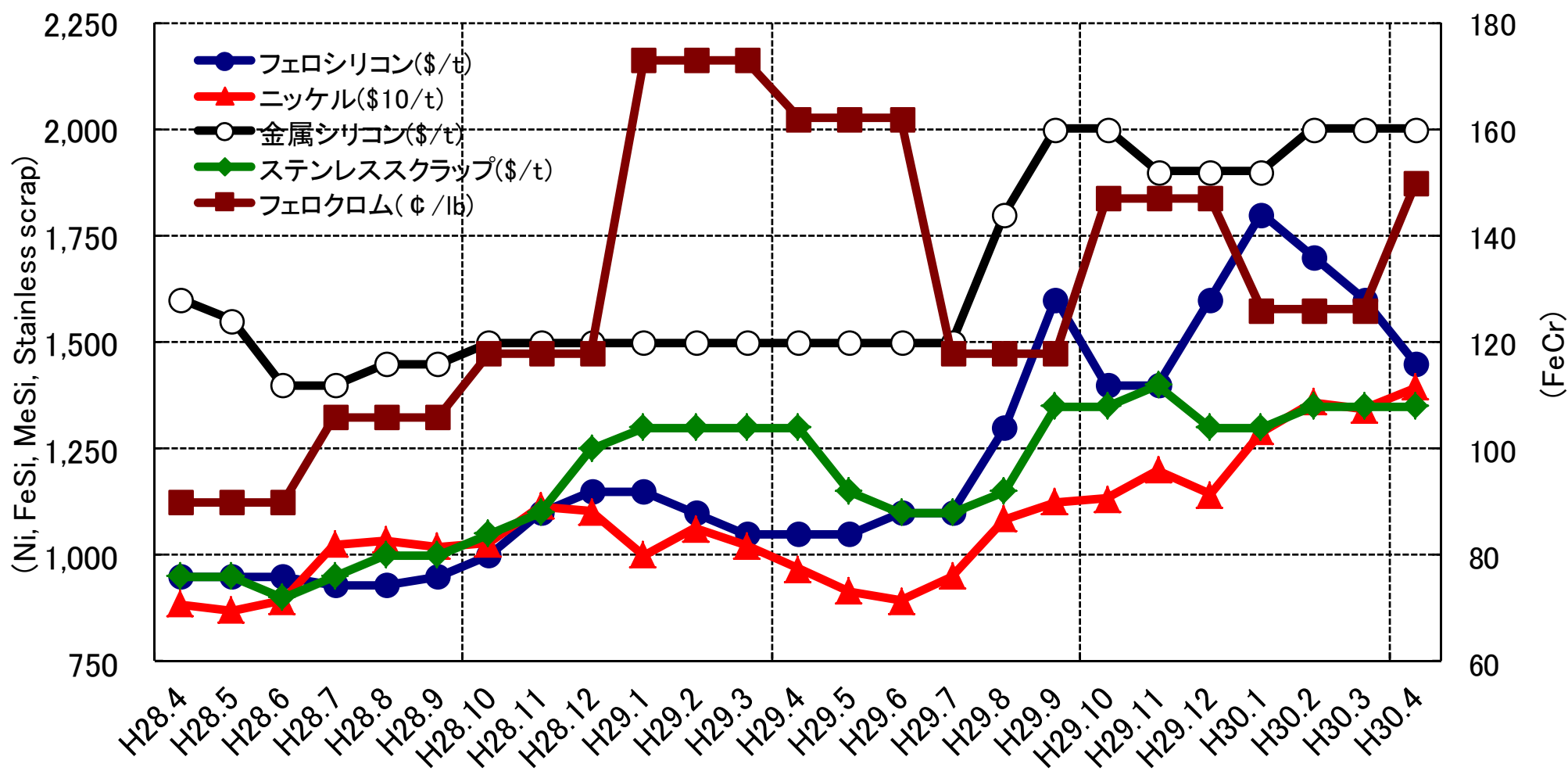
市況動向…鉄鋼ミルの値上げ姿勢により、市況上昇。引受カット等もあり、タイト感が強まっているが、足下はペースが鈍っている。

【薄板3品市中外在庫量と熱延鋼板市況の推移】



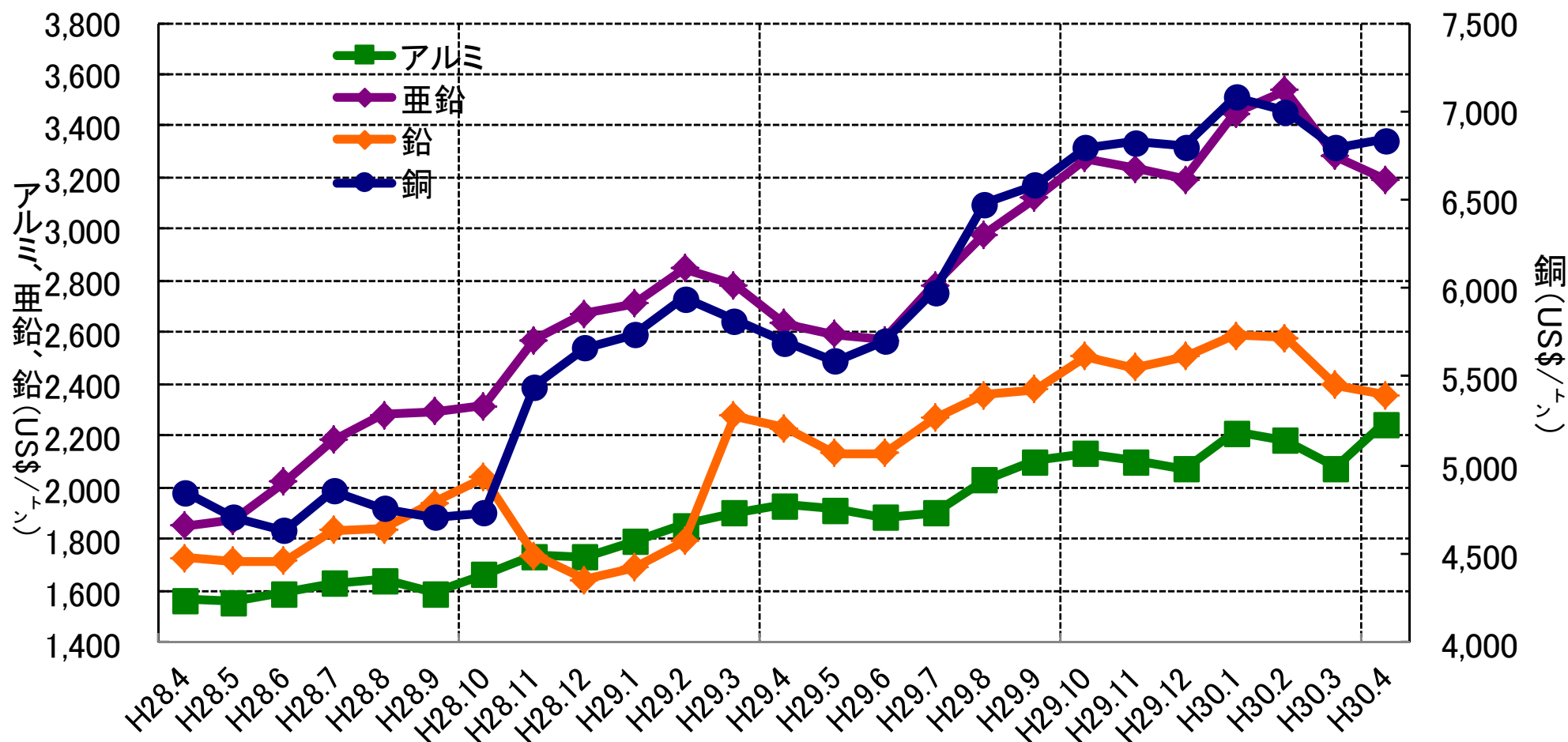
金属原料市況の推移

ニッケル…鉍石輸出の再開や中国需要の停滞で一時下落するも、その後、中国需要の回復期待や供給不足懸念等も出て、復調。
合金鉄…中国の鋼材増産から需要が増加する一方で、環境規制や産出地域近辺での地震等の影響もあり、供給がタイト化し、価格強含み。



アルミ…LME価格はじり高傾向。中国の設備廃棄方針や省政府による精錬能力削減策、米国の輸入関税規制などにより、上げ足強まる。

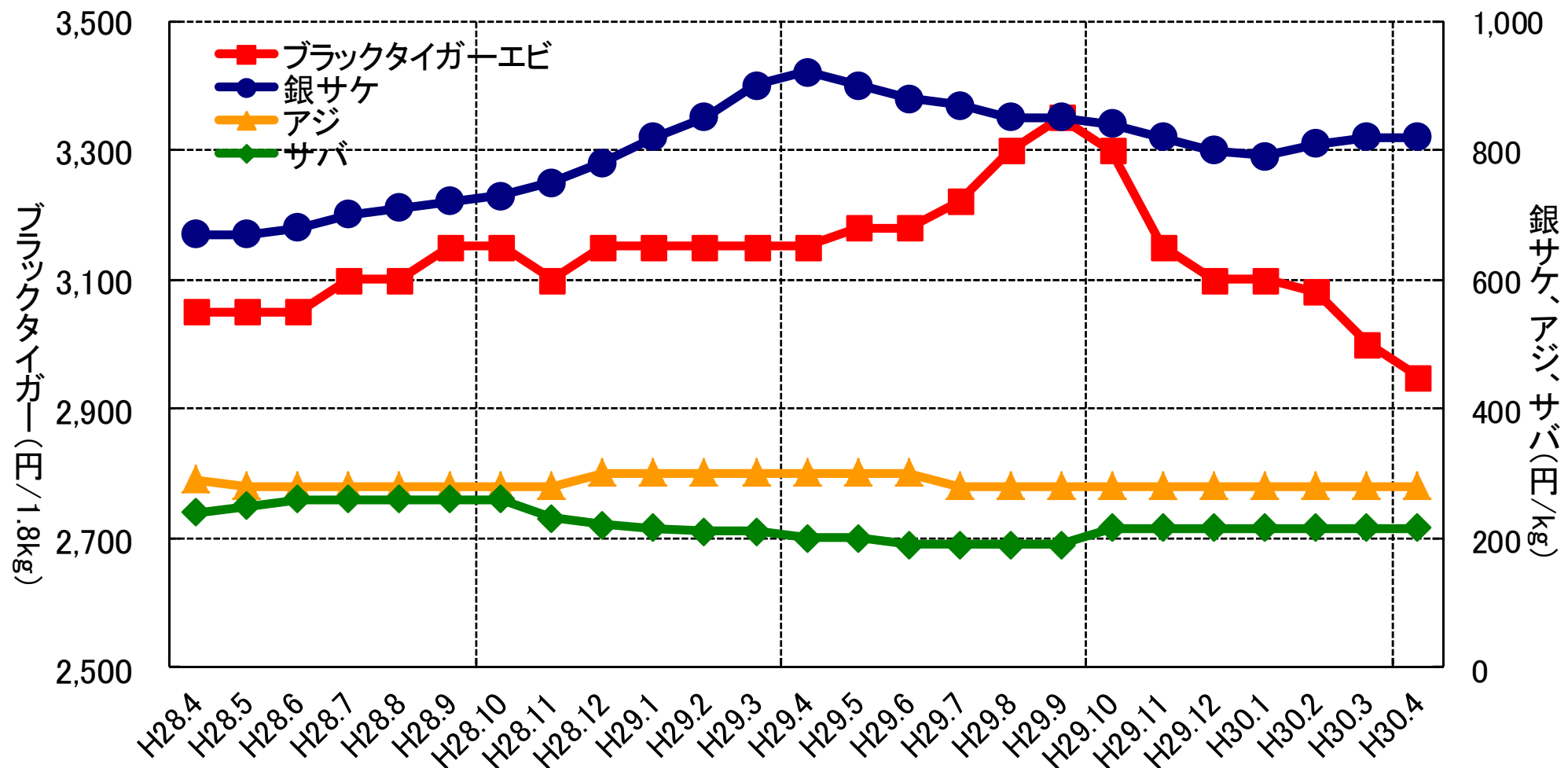
銅…LME在庫の増加により前半弱含みの推移だったが、中国のスクラップ輸入抑制策や中国需要への期待感、北朝鮮情勢などを反映して上昇。



輸入水産物市況の推移

エビ…東南アジアでの水揚げが低調で、現地相場は高値推移も、北米・日本の買い付け意欲低く、反落。足下は弱含みで推移。

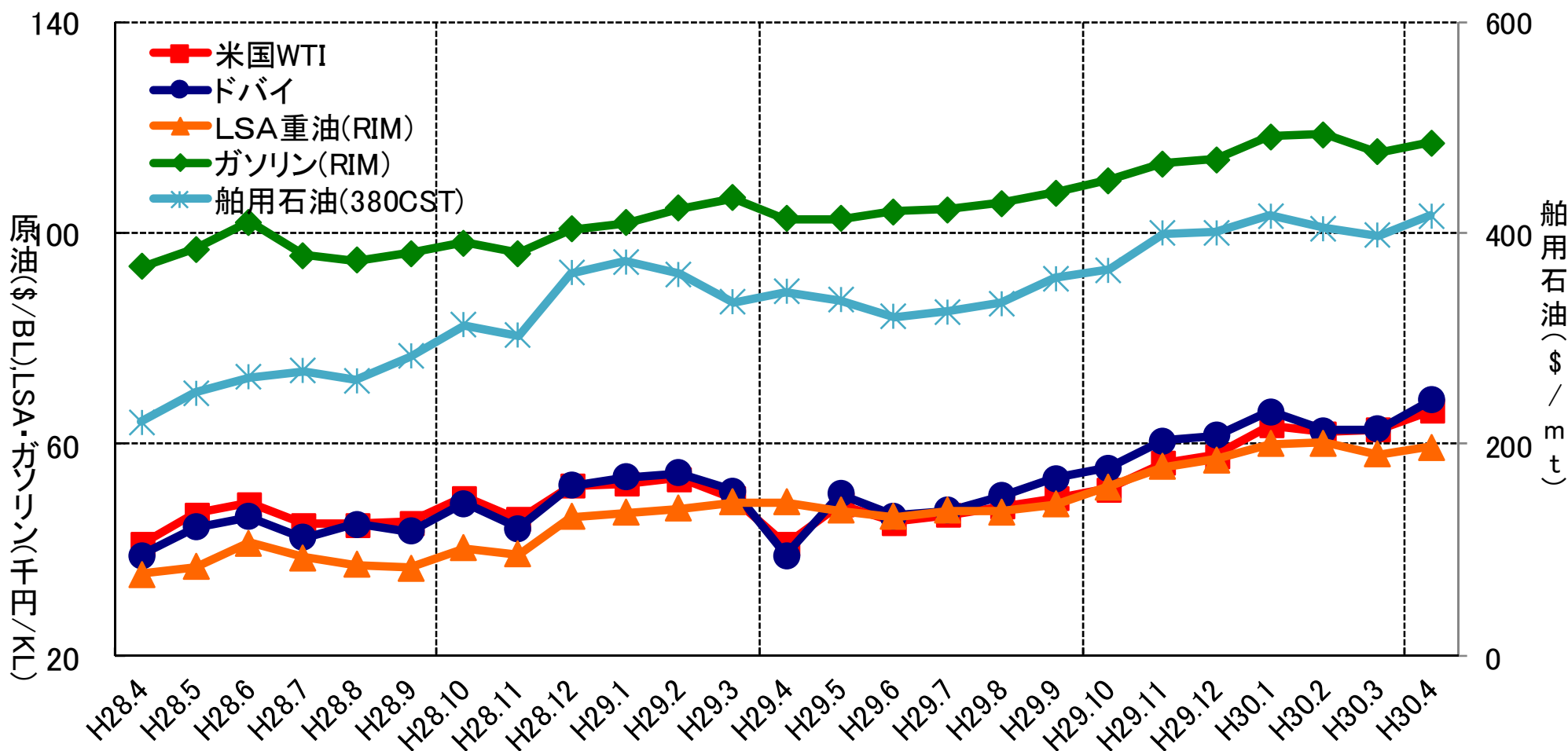
サケ…チリ銀ザケの新物が入着してきてても、ロシア紅鮭などの水揚げが低調で、価格は緩やかな下げにとどまり、足下底打ち。



原油・石油製品市況の推移

原油…OPECの協調減産やアメリカのハリケーン影響などで緩やかな上昇基調で推移。足下は中東情勢などの影響も市況を押し上げ。

製品…原油価格の底堅い動きに連れて、元売の価格政策も上げ基調。冬場の需要増や製油所トラブルなども上げ要因。



ユーザーのために・ユーザーとともに



阪和興業株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。